

やまぶき

第14集

〈学校教育のための博物館活用の手引き〉



川 越 市 立 博 物 館

あいさつ

川越市教育委員会
教育長 新井 孝次

平成23年3月に告示された学習指導要領は、教育基本法の改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、子どもたちの「生きる力」をより一層はぐくむことを目指して改訂されました。これを受け、小学校においては平成23年度から、中学校においては平成24年度から全面実施されるようになりました。各学校においては、諸準備に万全を期し特色ある教育課程の編成に尽力され、実施されていることと存じます。

川越市教育委員会は、この学習指導要領の趣旨を踏まえ、子どもたちの「生きる力」を育成するために、様々な事業を展開し、学校教育の充実に努めているところです。

川越市立博物館では、学校の教育活動への博物館活用を推進し、児童生徒の学習を支援するとともに、子どもたちの豊かな心を育てる体験教室や先生方を対象とした研修会などを開催し、学校との連携を進めております。また、開館以来、川越市立博物館の「博学連携」の中核組織として活動してきた博物館利用研究委員会では、小・中学校の先生方と博物館職員が協同して、学校教育における博物館活用の研究を進めております。

今回は、平成23・24年度と2年間の継続研究で「博物館の資料を活用した授業づくりー博物館授業と訪問授業の工夫ー」をテーマとし、博物館で行う授業や、博物館職員が学校に出向き先生方と一緒に授業を行う訪問授業の在り方について研究を重ね、先生方が活用し易い教材開発に努めて参りました。その成果を「やまぶき第14集」としてまとめることができました。

この「やまぶき第14集」も第13集同様、データをデジタル化して川越市立博物館ホームページに掲載いたします。各学校においては、このホームページ及び博物館資料を学校で活用し、教科等の中で役立てていただければ幸いです。

結びに、本資料作成に尽力された博物館利用研究委員会の各委員の先生方に、心からお礼申し上げます。あいさつといたします。

博物館利用研究委員会
委員長 関根 康弘

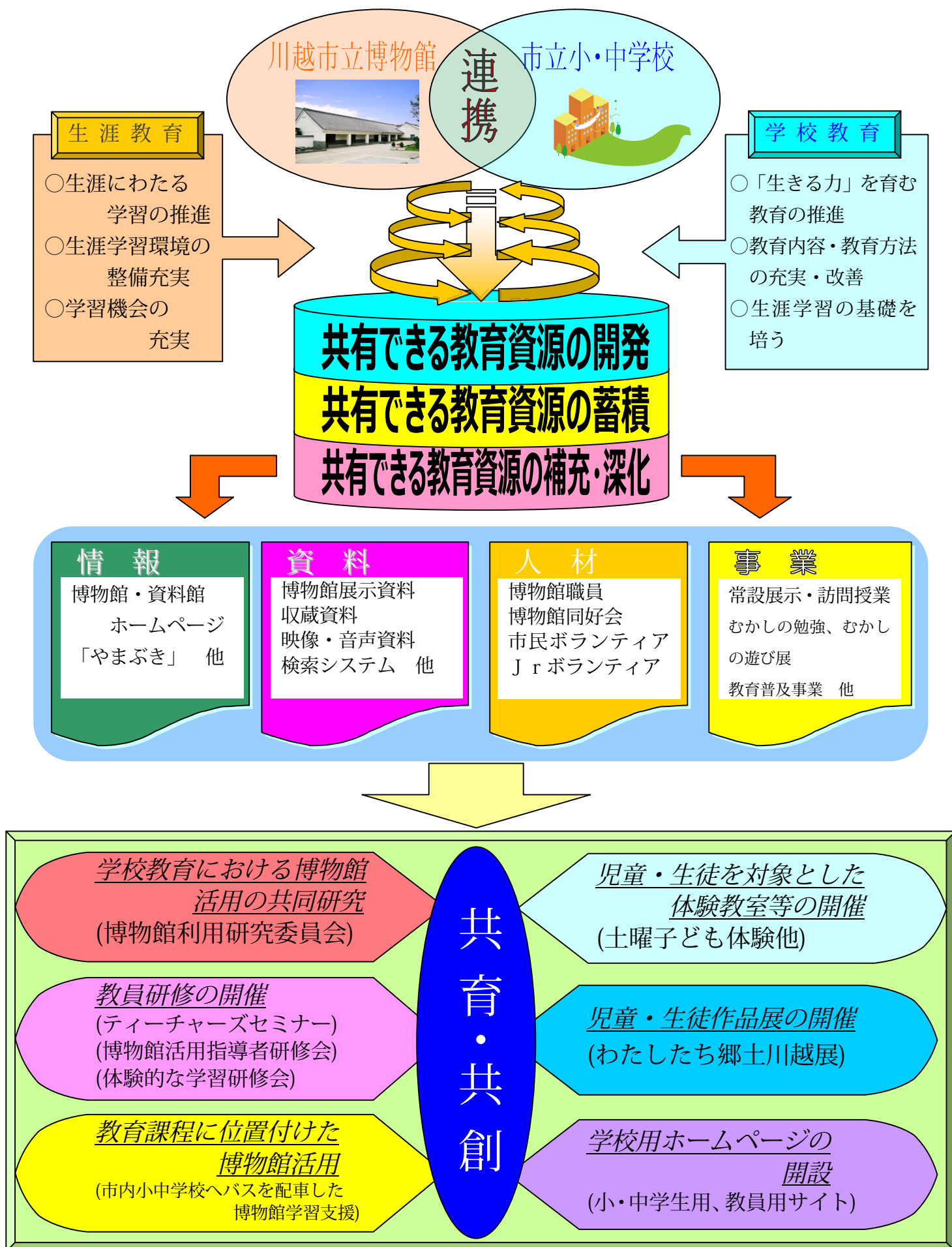
小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から、現行の新学習指導要領が全面实施されています。新学習指導要領の理念を実現するためには、言語活動を充実させ、体験的な学習や探求的な学習を展開し、個に応じた指導を充実させるなど指導方法の工夫改善を進め、児童生徒の学習意欲の向上を図ることが重要です。

博物館利用研究委員会では、そういった学習の一助となることを願い、平成23・24年度の2年間にわたり、「博物館の資料を活用した授業づくりー博物館授業と訪問授業の工夫ー」をテーマに、研究を重ねて参りました。小・中学校の教員からなる14名の委員が、6つの教科・領域部会に分かれ、それぞれの教科・領域の中で児童生徒が博物館を訪れて行う「博物館授業」と博物館職員が博物館の資料を持って学校を訪問し、ゲストティーチャーとして行う「訪問授業」の在り方について研究し、指導カードとしてまとめました。この「やまぶき第14集」に具体的な活用例として掲載しており、各学校において、積極的に活用されることを願います。

また、川越市立博物館では、開館の1年前より博物館利用研究委員会を組織し、学校と博物館の連携の在り方について、先駆的に研究を続け24年が経過しました。今後も本研究委員会では学校教育に役立つ研究を進めて参りますので、先生方からの率直なご意見、ご示唆をいただければ幸いです。

結びに、本研究を進めるにあたってご指導・ご助言をいただきました川越市教育委員会の先生方並びに川越市立博物館の皆様には厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

川越市立博物館における学校教育との連携



博物館利用研究委員会

目的

- 学校の教育課程に位置付けた博物館・文化財の活用の研究と実践
- 地域に根ざした博物館・文化財活用の研究

研究開発

各教科・領域の学習に活用できる博物館資料や文化財の研究・実践

教育普及

博物館活用の手引き
「やまぶき」の発行
博物館活用指導者研修会

校外学習支援

学習カード・指導カードの作成・配布

博物館利用研究委員会

委員長

事務局

副委員長

国語

社会

生活

外国語活動
英語

図画工作
美術

総合的な学習
の時間

平成23・24年度の研究

博物館の資料を活用した授業づくり
—博物館授業と訪問授業の工夫—

■博物館利用研究委員名

大東西小学校校長	関根 康弘 (委員長)	川越西中学校教頭	堤 貴幸 (副委員長)
武蔵野小学校教諭	矢澤 恵子 (国語)	大東西小学校教諭	西堀 心 (外国語活動)
初雁中学校教諭	仲田 優子 (国語)	富士見中学校教諭	園田 秀彦 (英語)
大東東小学校教諭	永野 貴之 (社会)	霞ヶ関小学校教諭	白石 真澄 (図工)
川越第一中学校教諭	林 遼平 (社会)	寺尾中学校教諭	清水真由美 (美術)
仙波小学校教諭	奥富 優子 (生活)	霞ヶ関北小学校教諭	江森今日子 (総合)
霞ヶ関西小学校教諭	佐藤 暁香 (生活)	東中学校教諭	相原 まき (総合)

■平成23年度研究委員

川越西小学校長	小林 英二 (委員長)	砂中学校教諭	富田 純司 (英語)
---------	-------------	--------	------------

■担当した職員

武蔵 昌行 (教育普及担当主査)	岡島 光次 (指導主事)	斎藤 信行 (指導主事)
------------------	--------------	--------------

研究主題 「博物館の資料を活用した授業づくり」
—博物館授業と訪問授業の工夫—

博物館の常設展示・収蔵資料の活用

展示資料

博物館資料

収蔵庫資料

地域の文化財等



写真・ビデオ

学習指導要領のねらいに迫る

「生きる力」の育成

- ・言語活動の充実・体験活動の充実
- ・伝統や文化に関する教育の充実
- ・外国語教育の充実など

授業づくり

「指導カード」を作成し、博物館授業・訪問授業による資料の活用を図る

学習意欲の向上

思考力・判断力・表現力の育成

博物館

児童生徒の身近な学習の場
生涯にわたって活用する態度や能力の基礎を養う場

研究の視点と手だて

国語科

社会科

生活科

外国語活動
英語科

図画工作科
美術科

総合的な学習
の時間

研究の視点 1

◎授業で活用できる資料の研究

- 常設展示資料・収蔵資料の調査
- 授業に活用する資料の検討・作成
- 授業における博物館職員の役割

研究の視点 2

◎授業実践による考察

- 「指導カード」の検討・作成
- 博物館授業・訪問授業の実践
- 授業後の考察

<博物館授業> 小学校第3学年 国語科 指導カード

1 単元名 「かるた」 ～かるたについて知ろう～

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 三芳野の里パネル (古代展示室)	・ パネルの周りに集まり、博物館職員の説明を聞く。	・ 古い時代から和歌は存在し、川越にも関係あることを知り、興味、関心を高める。
(2) 三十六歌仙額 ①在原業平 ②小野小町 ③猿丸大夫 ④柿本人麻呂 ⑤紀貫之 ⑥伊勢 ⑦山部赤人 ⑧僧正遍昭 (近世展示室)	・ 1枚ずつ見て、教科書に掲載されている作者や和歌を見つける。	・ 「小倉百人一首」にも選出されている作者の和歌の額を実際に見ることを通して、学習意欲を高める。 ・ 資料を通して、古いものの美しさや価値に触れる。
(3) 百人一首 (1992-030-0890)	・ 体験学習室に場を設定し、資料を閲覧する。 ・ それぞれかるたについて、博物館職員の説明を聞いたり、質問したりする。 ・ 興味を持ったものを中心に詳しく調べたり、読んだり、書き写したりする。 ・ 読み札に書かれていることわざを絵札の絵から想像したり確認したりする。	・ 歌かるたとも呼ばれている日本の伝統文化の短歌に出会い、美しい景色や世の中の出来事、人の気持ちなどを感じ取れるようにする。 ・ 先人が織り込んだ教訓や知恵などに気づくようにする。
(4) 小倉百人一首 (1994-011-0029)		
(5) ひらがな百人一首 (1994-011-0028)		
(6) 新犬棒かるた (1994-011-0030)		

3 指導計画（9時間扱い）

- (1) 内容の大体をつかみ、学習の見通しを持つ。……………2時間
- (2) 段落ごとに詳しく読み、小見出しを付けたり、文章構成を確認したりする。……4時間
- (3) 実際のかるたやことわざについて、調べる。……………2時間(本時)
- (4) 先人の知恵についてまとめる。……………1時間

4 指導の実際（7／9時）

(1) 目 標

<関> 博物館にある資料を見たり、説明を聞いたりして、わが国の伝統と文化に対する関心や理解を深める。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 本時のねらいを確認する。 ・学習の目的 ・学習の内容	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○博物館での約束を再確認する。 ○教科書に取り上げられているかるたについて、キーワードをもとに確認する。	・ワークシート	2分
博物館にある和歌やいろいろなかるたを知り、伝統文化に親しもう。			
2 「三芳野の里」の展示パネルを見て、和歌がたしなまれるようになったころの川越の様子を知る。 ・当時の川越の様子 ・和歌の意味	○内容に深入りせず、感じたことを自由に発言できるようにする。 □博物館職員から詳しい説明を聞く。 ◎古い時代から川越に関わりのある和歌があることを知る。	・三芳野の里展示パネル (古代展示室)	5分
3 「三十六歌仙額」を見て、授業で登場した作者の額について調べる。 ・三十六歌仙額の意味 ・登場する作者	○教科書に掲載されている作者や和歌を見つける。 ○資料については、学習時に博物館で展示されている資料で対応する。 □展示している額の和歌や作者名を紹介し簡単な説明をする。 □児童の質問に答える。 ◎教科書で学んだかるたに登場した和歌や作者と川越との関わりを知り、学習への関心を高める。	・三十六歌仙額 (近世展示室)	8分
4 様々なかるたの実物資料を観察し、興味のあるかるたについて調べる。 ・選んだかるたの模写 ・絵札の内容 ・読み札の意味	○各種のかるたから、関心のある資料を選び、調べるようにする。 □各資料ごとに配置し、資料について解説したり、質問に答えたりする。 ◎多種多様なかるたが作られ、人々に親しまれてきたことに気づくようにする。 ◎作品の文字や絵の美しさを感じ取る。 ☆興味のあるかるたについて意欲的に調べようとしている。(関)	・ワークシート ・百人一首 ・小倉百人一首 ・ひらがな百人一首 ・新犬棒かるた (体験学習室)	20分
5 調べたかるたについて発表する。 ・選んだかるたの名前 ・選んだ理由	○興味を持った理由について説明できるようにする。 ○選んだかるたの読み札をリズムに気をつけて読めるようにする。	・ワークシート	8分
6 本時の学習を振り返る。 ・学習成果の確認 ・今後の学習	○多種多様なかるたが存在し、それぞれによさがあることを確かめるようにする。		2分

＜訪問授業＞ 小学校第3学年 国語科 指導カード

1 単元名 「かるた」 ～かるたについて知ろう～

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 三十六歌仙額 ①在原業平 ②小野小町 ③猿丸大夫 ④柿本人麻呂 ⑤紀貫之 ⑥伊勢 ⑦山部赤人 ⑧僧正遍昭 (写真パネル)	・1枚ずつ見て、教科書に掲載されている作者や和歌を見つける。	・「小倉百人一首」にも選出されている作者の和歌の額を実際に見ることを通して、学習意欲を高める。 ・資料を通して、古いものの美しさや価値に気づくようにする。
(3) 百人一首 (1992-030-0890)	・体験学習室に場を設定し、資料を閲覧する。	・歌かるたとも呼ばれている日本の伝統文化の短歌に出会い、美しい景色や世の中の出来事、人の気持ちなどを感じ取れるようにする。
(4) 小倉百人一首 (1994-011-0029)	・それぞれかるたについて、博物館職員の説明を聞いたり、質問したりする。	
(5) ひらがな百人一首 (1994-011-0028)	・興味を持ったものを中心に詳しく調べたり、読んだり、書き写したりする。	
(6) 新犬棒かるた (1994-011-0030)	・読み札に書かれていることわざを絵札の絵から想像したり確認したりする。	

3 指導計画（9時間扱い）

- (1) 内容の大体をつかみ、学習の見通しを持つ。……………2時間
 (2) 段落ごとに詳しく読み、小見出しを付けたり、文章構成を確認したりする。………4時間
 (3) 実際のかるたやことわざについて、調べる。……………2時間(本時)
 (4) 先人の知恵についてまとめる。……………1時間

4 指導の実際（7／9時）

(1) 目 標

＜関＞ 博物館にある資料を見たり、説明を聞いたりして、わが国の伝統と文化に対する関心や理解を深める。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時 間
1 本時のねらいを確認する。 ・学習の目的 ・学習の内容	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○教科書に取り上げられているかるたについて、キーワードをもとに確認する。	・ワークシート	3分
博物館にある和歌やいろいろなかるたを知り、伝統文化に親しもう。			
2 「三十六歌仙額」を見て、授業で登場した作者の額について調べる。 ・三十六歌仙額の意味 ・登場する作者	○教科書に掲載されている作者や和歌を見つける。 □展示している額の和歌や作者名を紹介し簡単な説明をする。 □児童の質問に答える。 ◎教科書で学んだかるたに登場した和歌や作者と川越との関わりを知り、学習への関心を高める。	・三十六歌仙額 写真パネル 8種類	10分
3 様々なかるたの実物資料を観察し、興味のあるかるたについて調べる。 ・選んだかるたの模写 ・絵札の内容 ・読み札の意味	○各種のかるたから、関心のある資料を選び、調べるようにする。 □各資料ごとに配置し、資料について解説したり、質問に答えたりする。 ◎多種多様なかるたが作られ、人々に親しまれてきたことに気づく。 ◎作品の文字や絵の美しさを感じ取る。 ☆興味のあるかるたについて意欲的に調べようとしている。(関)	・ワークシート ・百人一首 ・小倉百人一首 ・ひらがな百人一首 ・新犬棒かるた	20分
4 調べたかるたについて発表する。 ・選んだかるたの名前 ・選んだ理由	○興味を持った理由について説明できるようにする。 ○選んだかるたの読み札をリズムに気をつけて読めるようにする。	・ワークシート	10分
5 本時の学習を振り返る。 ・学習成果の確認	○多種多様なかるたが存在し、それぞれによさがあることを確かめるようにする。		2分

＜博物館授業＞ 中学校第3学年 国語科 指導カード

1 単元名 「いにしえの心と語らう」

～昔の人の生活や社会などを想像して読み、古典の心を今に生かす～

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 三十六歌仙額 (近世展示室)	・ クラスを2グループに分け、交互に展示室を移動し、資料に関する説明を聞く。	・ 資料を通して、和歌に対する興味関心を高める。 ・ 川越に関わりの深い太田道灌を通して、より和歌が身近に感じられるようにする。 ・ 連歌にも着目させ、宗祇から芭蕉へのつながりにも触れる。
(2) 河越千句 (中世展示室)		
(3) 絹本着色太田道灌像 (中世展示室)		
(4) 百人一首 (1992-030-0890)	・ 体験室に展示してある資料を閲覧する。 ・ くずし仮名文字で書かれた和歌の「下の句」を読み、どの和歌の下の句か考える。	・ 展示した資料を通して、古い時代から人々は和歌に親しみ、川越にも関わりのある資料が残っていることを実感できるようにする。 ・ くずし仮名文字に触れ、仮名文字に対する興味関心を高める。
(5) 三十六歌仙額 (写真パネル)		

3 指導計画（8時間扱い）

- (1) 身近な資料から和歌に触れ、古典の世界に親しむ……………1時間（本時）
- (2) 「君待つと」（万葉・古今・新古今）……………3時間
- (3) 「夏草」（「おくのほそ道」から）……………3時間
- (4) お薦めの古典を贈ろう……………1時間

4 指導の実際（1／8時）

(1) 目 標

＜関＞ 身近な資料を通して和歌に触れ、歴史的な背景等を踏まえた上で作者や作品をより深く理解し、古典の世界に親しもうとする。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	○ワークシートを配布し授業のねらいと流れを確認する。 □見学する上での注意点を説明する。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○担任教師は課題提示後T2となって、生徒の指名や博物館職員の補助にあたる。	・ワークシート	3分
博物館の資料を通して和歌に親しもう。			
2 近世展示室・中世展示室で和歌に関連する資料についての説明を聞き、調べる。 (1)三十六歌仙額 ・仙波東照宮の紹介 ・藤原公任による選定 ・芸術作品としての文字の配列 (2)河越千句 ・連歌の意味 ・句会の様子 ・太田道真・道灌父子と宗祇との関わり	○資料が見やすい位置に生徒を誘導する。 ○2グループが交互に展示室を移動して見学できるように進行する。 □博物館職員は2人で対応する。 ◎身近な資料から、和歌に対する興味関心を高める。 ☆しっかり説明を聞き、和歌について理解を深めようとしている。(関)	・三十六歌仙額 (近世展示室) ・河越千句 (中世展示室) ・絹本着色 太田道灌像 (中世展示室)	20分
3 体験活動室に展示した「百人一首」を閲覧する。 くずし仮名文字で書かれた下の句を解説しどの和歌の下の句か考える。	□閲覧をする時の注意点を説明する。 □閲覧に立ち会い生徒の質問に対応する。 ○6種類のワークシートを作成し、個別に活動できるようにする。 ◎展示されている資料を通し、和歌が遊びとして生活に根付いてきたことや、和歌の歴史に思いをはせさせる。 ◎古い時代から人々は和歌に親しみ、川越でもそれに無縁ではなかったことを実感させる。 ◎くずし仮名文字に興味をもたせる。 ☆興味を持って資料を閲覧し、どの歌の下の句か答えようとしている。(関)	・百人一首 (体験学習室) ・下の句の拡大コピー(25枚) ・ワークシート	20分
4 活動3の答えを確認し合う。 ・くずし仮名文字の意味	○ワークシートごとに、どの歌の下の句が展示されていたか、答えを確認する。 □有名な作者について、三十六歌仙額のパネルを使いながら説明する。	・三十六歌仙額の写真パネル 8種類 (体験学習室)	5分
5 今後の学習の見通しをもつ。	○本時の学習を生かしながら、古典の学習を進めていくことを確認する。 ○有名な作者について、自主学習として調べておくよう呼びかける。		2分

<訪問授業> 中学校第3学年 国語科 指導カード

1 単元名 「いにしえの心と語らう」

～昔の人の生活や社会などを想像して読み、古典の心を今に生かす～

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 絹本着色太田道真像 (写真パネル)	・ パネルをもとに、太田道真、道灌父子と和歌、連歌との関わりについて博物館職員の話聞く。	・ 川越に関わりの深い太田道真、道灌を通して、より和歌が身近に感じられるようにする。 ・ 連歌にも着目させ、宗祇から芭蕉へのつながりにも触れる。
(2) 河越千句 (写真パネル)		
(3) 百人一首 (1992-030-0890)	・ 教室前方の机の上に展示した資料の箱や札を閲覧する。	・ 和歌が百人一首という遊びとして親しまれるようになった歴史的事実に気づくようにする。
(4) 三十六歌仙額 (写真パネル)	・ 班で1枚ずつパネルを担当し百人一首の作者として有名な歌人の歌について学ぶ。	・ 和歌そのものだけでなく、文字や人物の姿等から興味を持って古典の学習に取り組めるようにする。

3 指導計画（8時間扱い）

- (1) 身近な資料から和歌に触れ、古典の世界に親しむ……………1時間（本時）
- (2) 「君待つと」（万葉・古今・新古今）……………3時間
- (3) 「夏草」（「おくのほそ道」から）……………3時間
- (4) お薦めの古典を贈ろう……………1時間

4 指導の実際（1／8時）

(1) 目 標

<関> 身近な資料を通して和歌に触れ、歴史的な背景等を踏まえた上で作者や作品をより深く理解し、古典の世界に親しもうとする。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	○ワークシートを配布し授業のねらいと流れを確認する。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○担任教師は課題提示後T2となって、生徒の指名や博物館職員の補助にあたる。	・ワークシート	2分
博物館の資料を通して和歌に親しもう。			
2 絹本着色太田道灌像河越千句の資料をもとに、太田道真・道灌父子と和歌・連歌との関わりについて調べる。 ・道真、道灌が優れた歌人でもあったこと ・道真、道灌親子と宗祇との関係	□資料をもとに、太田道真・道灌父子と和歌・連歌との関わりについて説明する。 ◎市役所前の銅像と違うイメージの資料に注目させ、市の花「やまぶき」と和歌の関わりについて復習する。 ◎川越に関わりの深い二人の姿を通して、和歌や連歌をより身近に感じられるようにする。 ○宗祇と芭蕉の関係、俳句の起こり等について簡単に説明する。 ☆しっかり話を聞き、和歌や連歌について理解を深めようとしている。(関)	・絹本着色太田道灌像 (写真パネル) ・河越千句 (写真パネル) ・教科書P150	10分
3 展示した札や箱を閲覧し、百人一首の歴史やくずし仮名文字について調べる。 ・百人一首の歴史 ・くずし仮名文字の意味	○百人一首の歴史について説明する。 □閲覧する時の注意点を説明する。 □展示場所で生徒の質問に対応する。 ◎展示されている資料を通し、和歌が百人一首という遊びとして親しまれるようになった歴史を学ぶようにする。	・百人一首 (1992-030-0890)	10分
4 百人一首に登場する歌人の三十六歌仙額について調べる。 ・三十六歌仙額の意味 ・作者について ・和歌の内容 ・百人一首の歌との関わり	□「三十六歌仙額」について解説する。 □紹介した額に描かれている歌人について簡単に紹介もする。 ○各班に1枚ずつパネルを配布し、和歌の解説に挑戦させる。 ○数首の和歌と その意味を書いたプリントを配布し、その中から該当する和歌を考えるようにする。 ○ワークシートは、絵や和歌を模写できるような内容にする。 ◎和歌そのもののだけでなく、文字や人物の姿等から興味を持って古典の学習に取り組めるようにする。 ☆興味を持って資料を閲覧し、文字を読もうとしている。(関)	・三十六歌仙額 8種類 (写真パネル) ・教科書P141	25分
5 今後の学習の見通しをもつ。 ・教科書による概観	○本時の学習を生かしながら、次時から古典の学習をどう進めるか確認する。	・教科書 P137～160	3分

＜授業の様子＞

- 本時の学習に関心を持って、意欲的に取り組んだ。
- 教科書に取り上げられている「いろはかるた」「百人一首」に関わる本文の振り返りもよくでき、本時に関わるキーワードもよく理解していた。
- 「新犬棒かるた」のことわざを絵から想像したり、確認したりする授業を博物館職員と行い楽しく学習していた。
- 使用した資料を熱心に調査したり、博物館職員に積極的に質問したりした。また、その成果をワークシートに書き込むこともできた。
- 多くの児童から、次のような感想が寄せられた。
 - ・古いかるたを見ることができてよかった。(うれしかった)
 - ・すごく古いものがあって、びっくりした。
 - ・いろいろなかるたを見ることができて、勉強になった。
 - ・今度は博物館に行って、他の資料も見たい。



＜成 果＞

- 教科書に掲載されている「小倉百人一首」に登場する猿丸太夫の人物画やその和歌について、仙波東照宮に奉納された「三十六歌仙額」の複製資料を通して学ぶことにより、古いものの美しさや、醸し出す雰囲気に触れるねらいを達成することができた。
- 三十六歌仙額がもつ文字や配列、絵等の作品としての美しさに深い感銘を受けた児童もいた。
- 博物館が保管している百年以上前の「小倉百人一首」の実物を実際に見ることにより、書かれている字体や絵の美しさを感じ取っていた。
- 「新犬棒かるた」の絵やことわざの内容が現在と違っていることを感じ取ることができた。また、ローマ字も書かれていることで、当時の様子も分かった。
- クイズ形式でことわざの意味を考えたり、絵札を見つけたりする活動を通して、ことわざへの関心・意欲が高まった。



＜課 題＞

- 実物資料については、触れることができないものがあるため、残念な面もある。
- 限られた時間の中で効率よく授業を実施するためには、資料の配置や児童の動きなど、博物館職員との事前打ち合わせをさらに細かく行う必要がある。



＜授業の様子＞

- 博物館職員の説明が丁寧で分かりやすく、生徒は興味を持って見学していた。
- 百年以上前の百人一首に興味津々の様子だった。「百年前の匂いだ。」と言ってかいでもようとする生徒もいた。
- 「くずし仮名文字」を読むことにはかなり苦戦していたが、博物館職員の支援により手がかりとなる文字を見つけ、読むことができた生徒もいた。
- 多くの生徒から、次のような感想が寄せられた。

＜「三十六歌仙額」を見学して＞

- ・額の中の文字は無意味にバラバラなのではなく、美しく見えるように配置された芸術品だと分かってびっくりした。
- ・できたら今度全部の額を見てみたい。絵がすごくきれいだなぁと思った。



＜「河越千句」の解説を聞いて＞

- ・「あげく」が連歌からきた言葉だとは知らなかったのでびっくりした。
- ・連歌はおもしろそうのでやってみたいと思った。しりとりみたいだ。

＜百人一首の閲覧と「くずし仮名文字」を読む体験から＞

- ・普段に目にすることのできない百人一首を見られてよかった。
- ・くずし仮名文字はほとんど読めなかったけれど、少しずつ読めるようになると達成感があり感動した。
- ・今まで見たこともないような文字がたくさんあり、博物館の方にたくさん聞いていろいろ学べてよかった。



＜成 果＞

- いろいろな資料を通して、川越と古典の世界とのつながりが身近なものとして感じられるようになった。
- これまでは単に知識としての「宗祇」という人物を知る程度であったが、「河越千句」を例に学ぶことにより、生徒にとってより身近な人物となった。
- 三十六歌仙額や百人一首にあるくずし仮名文字を実際に見ることにより、文字の歴史や文化に関心をもつようになった。
- 社会科での活用が多かった博物館での学習を、国語科の授業として実施したことにより、新鮮な驚きと感動があったようである。国語科との関わりを中心にした博物館職員の説明がとても良かった。

＜課 題＞

- 国語科の授業に関わる資料という視点で振り返ると、資料の点数は少なく、内容が限定されてしまった。
- 博物館での活動すべてを見学にあててではなく、調べたことをもとに学びを深める時間も確保したい。そのための場所の設定も必要である。
- 中世の資料を利用すると、書写とも関連させ文字の歴史を学ぶこともできる。
- 三十六歌仙額は何かパネルになっており、今回利用した他の資料も含め「訪問授業」として活用していくことも可能である。古典の導入としては効果的である。



＜博物館授業＞ 小学校第6学年 社会科 指導カード

1 小単元名 「明治の国づくりを進めた人々」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 入間縣高札 (近現代展示室)	- 川越における廃藩置県の様子を解説する導入資料として提示する。 「入間縣」の表記に着目させる。	高札にある「入間縣」の表記をもと、川越周辺の廃藩置県への関心を高める。
(2) 県名改称のパネル (館職員作成資料)	県名改称の経緯を説明する。	
(3) 川越市の鉄道敷設 ①当時の写真 ・川越駅 ・川越町駅 ・久保町駅 ②市内の経過図 (近現代展示室)	- 蒸気機関車が走っていた頃の駅の名前や様子を紹介する。 - 川越に初めて鉄道が開通された頃から戦前までの路線を紹介する。	明治以降に広まった新しい文化について、「鉄道」や「商店」を事例として取り上げ、調べることで、川越で新しい仕組みや文化が庶民の間に広がっていたことを理解できるようにする。
(4) 川越勉強商家寿語録 (近現代展示室)	明治35年頃の川越商家の種類を調べる。	川越に関わる各種資料を活用して、川越で広まった新しい制度や文明開化などの社会的事象を自分ごととしてとらえることができるようにする。
(5) 蔵造り町並み模型 (近現代展示室)	寿語録で紹介されていた商家の中から指定された商家6店舗を模型から探す。	

3 指導計画（10時間扱い）

- (1) 学習問題を設定し、学習問題の答えを予想する。……………1時間
- (2) 黒船来航や江戸幕府が倒れたことについて調べる。……………1時間
- (3) 明治新政府の諸改革について調べる。……………1時間
- (4) 明治新政府の諸政策について調べる。……………1時間
- (5) 明治維新による社会の変化（文明開化）について調べる。……………1時間
- (6) 大日本帝国憲法や憲法制定に至る過程について調べる。……………1時間
- (7) 大日本帝国憲法や憲法制定に至る過程について調べる。……………1時間
- (8) 川越における明治新政府の諸政策や文明開化について調べ、まとめる。……1時間(本時)
- (9) わかったことを相関図にまとめる。……………1時間
- (10) 調べたことを基に学習問題について話し合い、結論を出す。……………1時間

4 指導の実際（8／10時）

(1) 目 標

＜関＞ 年表や写真、模型などの資料や館職員への聞き取り調査を通して、明治新政府の諸政策や文明開化と自分たちとのつながりについて考え、地域に対する愛情をもとうとする。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 これまでの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・明治政府の新政策 ・文明開化により広がった新たな文化 2 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	○これまでの明治新政府の諸政策や文明開化の様子を簡単に振り返り、「当時の川越はどうだったのか」という視点を提示し、学習の見通しをもてるようにする。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○担任教師は課題提示後T2となって、児童の指名や館職員の補助にあたる。	・ワークシート	5分
明治維新により、川越ではどのようなできごとがおこったのだろうか？			
3 川越での明治政府の諸政策や文明開化の様子について、博物館職員への聞き取り調査を通して調べ、ワークシートにまとめる。 (1) 川越の「廃藩置県」 ① 県名の変遷 ・川越県→入間県 ・入間県→熊谷県 ・熊谷県→埼玉県 (2) 川越の「鉄道」 ① 当時の駅の様子 ・川越駅 ・川越町駅 ・久保町駅 ② 当時の路線 ・川越鉄道 ・川越電気鉄道 ・東上鉄道 ・JR川越線 (3) 当時の「商店」 ① 商売の種類 ② 店舗の様子	○資料が見やすい位置に児童を誘導する。 □川越が埼玉県に属するまでの県名の変遷について解説する。 ◎「高札」にある入間縣の文字に着目し、川越が当時埼玉県でないことに気づかせ廃藩置県の様子への関心を高める。 □川越に初めてできた鉄道から、戦前までの鉄道の広がり方を解説する。 ◎駅舎の写真から、当時と現在では駅名が違うこと気づかせ、鉄道への関心を高める。 ◎川越では、文明開化の象徴の1つである「鉄道」が早い時期から広がっていたことに気づかせ、地域への誇りを感じられるようにする。 □明治35年に発行された、川越商家を紹介する資料を提示する。 ○調べ学習の方法を指示する。 ・班ごとに、資料と模型を見比べ、資料にある商店を模型の中から探す。 ・指定された6つの店舗を探す。 ◎寿語録や模型にある商店名や看板から、明治時代になり新たに登場した文化を気づかせる。 ☆年表や写真、模型などの資料や館職員への聞き取り調査を通して、明治政府の諸政策や文明開化と自分たちとのつながりについて考え、地域に対する愛情をもととする。(関)	・入間縣高札(近現代展示室) ・県名改称のパネル ・駅の写真 ・市内の経過図(近現代展示室) ・川越勉強商家寿語録(近現代展示室) ・蔵造り町並み模型(近現代展示室)	10分 10分 15分
4 本時の学習を振り返る。 ・課題の答え ・感想カードの記入	○明治政府の政策や、新しい文化が川越でも行われ、広まっていたことを確かめる。 ○博物館職員の話をもとに感想を書けるようにする。	・ワークシート	5分

＜訪問授業＞ 小学校第6学年 社会科 指導カード

1 小単元名 「明治の国づくりを進めた人々」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 入間縣高札 (写真パネル)	- 川越における廃藩置県の様子を解説する導入資料として提示する。 「入間縣」の表記に着目させる。	高札にある「入間縣」の表記をもと、川越周辺の廃藩置県への関心を高める。
(2) 県名改称のパネル (館職員作成資料)	県名改称の経緯を説明する。	
(3) 川越市の鉄道敷設 ①当時の写真 ・川越駅 ・川越町駅 ・久保町駅 ②市内の経過図 (写真パネル)	- 蒸気機関車が走っていた頃の駅の名前や様子を紹介する。 - 川越に初めて鉄道が開通された頃から戦前までの路線を紹介する。	- 明治以降に広まった新しい文化について、「鉄道」や「商店」を事例として取り上げ、調べることにより、川越で新しい仕組みや文化が庶民の間に広がっていたことを理解できるようにする。 - 川越に関わる各種資料を活用して、川越で広まった新しい制度や文明開化などの社会的事象を自分ごととしてとらえることができるようにする。
(4) 川越勉強商家寿語録 (写真パネル)	明治35年頃の川越商家の種類を調べる。	

3 指導計画（10時間扱い）

- (1) 学習問題を設定し、学習問題の答えを予想する。…………… 1 時間
- (2) 黒船来航や江戸幕府が倒れたことについて調べる。…………… 1 時間
- (3) 明治新政府の諸改革について調べる。…………… 1 時間
- (4) 明治新政府の諸政策について調べる。…………… 1 時間
- (5) 明治維新による社会の変化（文明開化）について調べる。…………… 1 時間
- (6) 大日本帝国憲法や憲法制定に至る過程について調べる。…………… 1 時間
- (7) 大日本帝国憲法や憲法制定に至る過程について調べる。…………… 1 時間
- (8) 川越における明治新政府の諸政策や文明開化について調べ、まとめる。…… 1 時間(本時)
- (9) わかったことを相関図にまとめる。…………… 1 時間
- (10) 調べたことを基に学習問題について話し合い、結論を出す。…………… 1 時間

4 指導の実際（8／10時）

(1) 目 標

＜関＞ 年表や写真、模型などの資料や館職員への聞き取り調査を通して、明治新政府の諸政策や文明開化と自分たちとのつながりについて考え、地域に対する愛情をもとうとする。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 これまでの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・明治政府の新政策 ・文明開化により広がった新たな文化 2 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	○これまでの明治新政府の諸政策や文明開化の様子を簡単に振り返り、「当時の川越はどうだったのか」という視点を提示し、学習の見通しをもてるようにする。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○担任教師は課題提示後T2となって、児童の指名や館職員の補助にあたる。	・ワークシート	5分
明治維新により、川越ではどのようなできごとがおこったのだろうか？			
3 川越での明治政府の諸政策や文明開化の様子について、博物館職員への聞き取り調査を通して調べ、ワークシートにまとめる。 (1) 川越の「廃藩置県」 ① 県名の変遷 ・川越県→入間県 ・入間県→熊谷県 ・熊谷県→埼玉県 (2) 川越の「鉄道」 ① 当時の駅の様子 ・川越駅 ・川越町駅 ・久保町駅 ② 当時の路線 ・川越鉄道 ・川越電気鉄道 ・東上鉄道 ・JR川越線 (3) 当時の「商店」 ① 商売の種類 ② 店舗の様子	○資料が見やすい位置に児童を誘導する。 □川越が埼玉県に属するまでの県名の変遷について解説する。 ◎「高札」にある入間縣の文字に着目し、川越が当時埼玉県でないことに気づかせ廃藩置県の様子への関心を高める。 □川越に初めてできた鉄道から、戦前までの鉄道の広がり方を解説する。 ◎駅舎の写真から、当時と現在では駅名が違ふこと気づかせ、鉄道への関心を高める。 ◎川越では、文明開化の象徴の1つである「鉄道」が早い時期から広がっていたことに気づかせ、地域への誇りを感じられるようにする。 □明治35年に発行された、川越商家を紹介する資料を提示する。 ○調べ学習の方法を指示する。 ・班ごとに、資料にある商家の「商売の種類」を調べる。 ・文明開化により登場したと考えられる商売を見つける。 ◎寿語録にある商店名から、明治時代になり新たに登場した文化を気づかせる。 ☆年表や写真、模型などの資料や館職員への聞き取り調査を通して、明治政府の諸政策や文明開化と自分たちとのつながりについて考え、地域に対する愛情をもとめようとする。(関)	・入間縣高札(写真パネル) ・県名改称のパネル ・駅の写真 ・市内の経過図(写真パネル) ・川越勉強商家寿語録(写真パネル)	10分 10分 15分
4 本時の学習を振り返る。 ・課題の答え ・感想カードの記入	○明治政府の政策や、新しい文化が川越でも行われ、広まっていたことを確かめる。 ○博物館職員の話をもとに感想が書けるようにする。	・ワークシート	5分

<博物館授業> 中学校第1学年 社会科 指導カード

1 単元名 「武士の台頭と鎌倉幕府」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 鎌倉街道伝承地 (教員作成資料)	・博物館職員による鎌倉街道の解説の際に個別に配布し、解説内容の補助資料として活用する。	・川越市近辺に鎌倉街道が通っていた点に注目し、鎌倉時代についての関心を高める。
(2) 武蔵武士分布図 (中世展示室)	・埼玉県や川越に存在した武蔵武士の名前を探す。	・武蔵武士と鎌倉幕府のつながりを実感し、教科書を通して学んだ歴史を「身近な地域の歴史」としてとらえ、興味、関心を高める。
(3) 武蔵武士関係略年表 (中世展示室)	・鎌倉幕府と武蔵武士のつながりがわかる記述を見つける。	
(4) 河越氏館跡 (中世展示室)	・河越館跡の大きさや当時の様子について調べる。	・武士の館が、戦に備えたつくりになっていたことを思い起こさせる。
(5) 河越館跡出土品 (中世展示室)	・河越館跡から出土した品物について調べる。	・腕などの出土品から、当時の武士の生活について考えるようにする。
(6) 銅鐘 (中世展示室)	・博物館職員による「銅鐘」「高野山町石」の意味や目的等について解説を聞く。	・河越氏が荘園の荘司であり、力をもった武士であったことが実感できるようにする。
(7) 高野山町石 (中世展示室)		
(8) 板碑 (中世展示室)	・博物館職員による「板碑」の意味や目的について解説を聞く。	・板碑には中世の人々が死後の安楽を願う気持ちが込められていることを理解する。 ・既習事項である鎌倉仏教と結びつけ、鎌倉時代では、人々が極楽に行くことを強く望んでいたことを想起させる。

3 指導計画（5時間扱い）

- (1) 武士の成長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (2) 武家政権の成立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (3) 武士と農民の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (4) 鎌倉時代の文化と宗教・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (5) 武蔵武士と鎌倉幕府の関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間（本時）

4 指導の実際（5／5時間）

(1) 目 標

- <関> 身近にある資料から、武蔵武士の様子や生活について意欲的に調べようとしている。
- <知> 川越に残る鎌倉時代の資料を通して、当時の武蔵武士の生活の様子について理解することができる。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 これまでの学習を振り返る。 ・武家政権の成立 ・武士の生活 ・鎌倉時代の宗教 2 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	○源氏の台頭や武士の生活など、鎌倉時代の様子を簡単に振り返る。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○「鎌倉時代の川越・埼玉」という視点を提示し、学習の見通しがもてるようにする。		5分
武蔵武士はどのような生活をしていたのだろうか？			
3 武蔵武士について博物館職員の解説を通して調べ、ワークシートにまとめる。 (1) 鎌倉街道 ・意味 ・場所 (2) 武蔵武士 ・畠山氏 ・河越氏 ・仙波氏 (3) 河越館と河越氏 ・河越氏の力 (4) 死後への願い ・川越に残る板碑 ・板碑の意味 ・板碑の目的	○プリントを配布し、鎌倉街道が通っていた場所を赤で着色する。 □非常時には兵馬が鎌倉街道を駆けて鎌倉に集まったことを説明する。 ◎鎌倉街道が県内に張り巡らされていたことや、川越市にも通っていたことを実感し、関心が高められるようにする。 ○分布図・略年表から武蔵武士の名前を探すようにする。 □河越氏や畠山氏と源氏との関係について説明する。 ◎川越や埼玉県内にも源氏とつながりの深い武士が存在したことから、郷土に対する関心を持てるようにする。 □河越館について説明する。 ○既習した武士の生活の学習内容と結びつけて考えられるようにする。 ◎館の概観や出土品から、武士の生活の様子を想像できるようにする。 □河越氏が銅鐘、高野山町石をそれぞれ奉納、寄進したことを説明する。 ◎河越氏が荘園の荘司であり、力をもっていたことを実感できるようにする。 □板碑の分布や意味、目的等について説明する。 ◎板碑の意味を理解し、鎌倉仏教と結びつけて考えられるようにする。 ☆武蔵武士の様子や生活について意欲的に調べようとしている。(関) ☆武蔵武士の生活について理解している。(理)	・ワークシート (鎌倉街道伝承地) ・武蔵武士分布図 ・武蔵武士関係略年表 (中世展示室) ・河越氏館跡 ・河越館跡出土品 ・銅鐘 ・高野山町石 (中世展示室) ・板碑 (中世展示室)	5分 10分 15分 10分
4 本時の学習についてまとめる。	○博物館職員の話をもとに感想が書けるようにする。	・ワークシート	5分

＜訪問授業＞ 中学校第 1 学年 社会科 指導カード

1 単元名 「武士の台頭と鎌倉幕府」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 鎌倉街道伝承地 (教員作成資料)	・博物館職員による鎌倉街道の解説の際に個別に配布し、解説内容の補助資料として活用する。	・川越市近辺に鎌倉街道が通っていた点に注目し、鎌倉時代についての関心を高める。
(2) 武蔵武士分布図 (写真パネル)	・埼玉県や川越に存在した武蔵武士の名前を探す。	・武蔵武士と鎌倉幕府のつながりを実感し、教科書を通して学んだ歴史を「身近な地域の歴史」としてとらえ、興味、関心を高める。
(3) 武蔵武士関係略年表 (写真パネル)	・鎌倉幕府と武蔵武士のつながりがわかる記述を見つける。	
(4) 河越氏館跡 (写真パネル)	・河越館跡の大きさや当時の様子について調べる。	・武士の館が、戦に備えたつくりになっていたことを思い起こさせる。
(5) 河越館跡出土品 (実物資料)	・河越館跡から出土した品物について調べる。	・腕などの出土品から、当時の武士の生活について考えるようにする。
(6) 銅鐘 (写真パネル)	・博物館職員による「銅鐘」「高野山町石」の意味や目的等について解説を聞く。	・河越氏が荘園の荘司であり、力をもった武士であったことが実感できるようにする。
(7) 高野山町石 (写真パネル)		
(8) 板碑 (実物資料)	・博物館職員による「板碑」の意味や目的について解説を聞く。	・板碑には中世の人々が死後の安楽を願う気持ちが込められていることを理解する。 ・既習事項である鎌倉仏教と結びつけ、鎌倉時代では、人々が極楽に行くことを強く望んでいたことを想起させる。

3 指導計画（5 時間扱い）

- (1) 武士の成長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (2) 武家政権の成立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (3) 武士と農民の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (4) 鎌倉時代の文化と宗教・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間
- (5) 武蔵武士と鎌倉幕府の関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間（本時）

4 指導の実際（5 / 5 時間）

(1) 目 標

- ＜関＞ 身近にある資料から、武蔵武士の様子や生活について意欲的に調べようとしている。
- ＜知＞ 川越に残る鎌倉時代の資料を通して、当時の武蔵武士の生活の様子について理解することができる。

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 これまでの学習を振り返る。 ・武家政権の成立 ・武士の生活 ・鎌倉時代の宗教	○源氏の台頭や武士の生活など、鎌倉時代の様子を簡単に振り返る。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。		5分
2 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	○「鎌倉時代の川越・埼玉」という視点を提示し、学習の見通しがもてるようにする。		
武蔵武士はどのような生活をしていただろう？			
3 武蔵武士について博物館職員の解説を通して調べ、ワークシートにまとめる。 (1) 鎌倉街道 ・意味 ・場所 (2) 武蔵武士 ・畠山氏 ・河越氏 ・仙波氏 (3) 河越館と河越氏 ・河越氏の力 (4) 死後への願い ・川越に残る板碑 ・板碑の意味 ・板碑の目的	○プリントを配布し、鎌倉街道が通っていた場所を赤で着色する。 □非常時には兵馬が鎌倉街道を駆けて鎌倉に集まったことを説明する。 ◎鎌倉街道が県内に張り巡らされていたことや、川越市にも通っていたことを実感し、関心が高められるようにする。 ○分布図・略年表から武蔵武士の名前を探すようにする。 □河越氏や畠山氏と源氏との関係について説明する。 ◎川越や埼玉県内にも源氏とつながりの深い武士が存在したことから、郷土に対する関心を持てるようにする。 □河越館について説明する。 ○既習した武士の生活の学習内容と結びつけて考えられるようにする。 ◎館の概観や出土品から、武士の生活の様子を想像できるようにする。 □河越氏が銅鐘、高野山町石をそれぞれ奉納、寄進したことを説明する。 ◎河越氏が荘園の荘司であり、力をもっていたことを実感できるようにする。 □板碑の分布や意味、目的等について説明する。 ◎板碑の意味を理解し、鎌倉仏教と結びつけて考えられるようにする。 ☆武蔵武士の様子や生活について意欲的に調べようとしている。(関) ☆武蔵武士の生活について理解している。(理)	・ワークシート (鎌倉街道伝承地) ・武蔵武士分布図 ・武蔵武士関係略年表 (写真パネル) ・河越氏館跡 (写真パネル) ・河越館跡出土品 (実物資料) ・銅鐘 ・高野山町石 (写真パネル) ・板碑 (実物資料)	5分 10分 15分 10分
4 本時の学習についてまとめる。	○博物館職員の話をもとに感想が書けるようにする。	・ワークシート	5分

成果と課題

小学校第6学年 社会科「博物館授業」の実践

<実践の様子>

- 授業でも川越市が属した県の名称の変遷について取り上げたが、子どもたちの関心は低く、反応も鈍いように感じた。しかし、博物館で明治初期の「高札」に記入されていた「入間県」の文字を実際に見つけ、県名の変遷についての説明を受けたときの子どもたちの様子はとても関心が高く、意欲的であった。
- 川越商家を紹介した寿語録の店舗を模型の中からよく探していた。
- 博物館職員の解説からわかったことを意欲的にワークシートに書き込んでいた。



<成 果>

- 博物館学習を通して、身近な資料から、社会的事象をより深く理解することができ、自分ごととしてとらえる子どもたちが増えた。
- 実物を見たり、博物館職員の解説を聞いたりする活動により、歴史や地域に対する子どもたちの興味関心が広がった。
- 自分たちの生活や地域と結びつけて考えていなかった文明開化について、博物館職員による「商家の職種」や「鉄道」の解説を通して、児童にとって身近な事象となった。
- 多くの児童から、次のような感想が寄せられた。
 - ・文明開化は江戸（東京）だけでなく、川越でも起きていたことが分かり、勉強になった。
 - ・教科書にのっていないことがたくさん分かった。
 - ・「高札」は今でいう連絡板の役目をしていたことや、私知らない川越や駅の歴史を教えてもらえてよかった。
 - ・埼玉県になるまで、いろいろ名前が変わっていることにびっくりした。
 - ・川越には、ずいぶん前からたくさんの鉄道が通っていたことにおどろいた。



<課 題>

- 実施する時期等、運営上の問題がある。目標や活動の目的を明確にし、年間指導計画に位置付ける必要がある。
- 今回は「廃藩置県」「鉄道」「川越商家」「銀行」の資料を取り上げたが、1つ1つの活動時間に余裕が無く、慌ただしい活動になってしまった。ねらいや内容を精選していく必要がある。
- 実物資料や地域に関わる資料を活用する効果がわかったので、今後も歴史を身近に（自分ごととして）とらえることができる資料を積極的に活用していく。
- 博物館職員と相談しながら、地域素材の開発、活用に努めていく。
(例) 大東東地区に残る（休線状態の）安比奈線の教材化

<博物館授業・訪問授業を実施した場合による「学習効果」>

- 教科書を中心に歴史を学ぶと事象を「他人事」のように感じている生徒が多い。今回のように、自分たちの地域である「川越」を例に学ぶことにより、自分事としてとらえる生徒が増え、知識の定着にもつながると考えられる。
- 今回の単元は、「川越に残っているものから、武蔵武士の生活について理解する」という内容なので、市内に残る河越館跡や武蔵武士の系図などについて知るよいきっかけとなり、生徒の郷土に対する愛着を高めることができる。
- 今回の学習は発展的な学習であるが、既習事項と結びつけるような内容を取り入れることにより、生徒の知識の定着にもつながる。
- 博物館職員による解説は、教師自身の勉強にもなる。教師が知らなかったことについて、学校内の教科部会で実践報告を行い、教員同士での伝達研修が可能となる。
- 訪問授業では、教室にしながら、学校では用意することが難しい実物資料に触れることができ、生徒の意欲を高めることができる。
- 博物館授業を実施した場合には、公共の場でのマナー、けじめを改めて意識させることができる。

<博物館授業・訪問授業を実施する場合の「留意点」>

- 河越館跡出土品から武士の生活の様子を生徒に想像させることが難しい。博物館職員の説明があってもようやく川越の武士がどのようなものだったかを理解できるので、生徒の学習活動の再考が必要である。
- 博物館授業で「武蔵武士分布図」「武蔵武士関係略年表」を活用する場合、見学スペースが狭く、全員が十分に資料を調べるのが難しくなる。印刷してわかる資料はプリントとして個別に配布していく方法も考えられる。プリントにした場合は、資料に記入したり、着色したりすることもできるため、生徒の作業や活動の時間も確保しやすくなる。
- 博物館授業の時間を確保することが、困難である。往復の交通時間と授業時間を考えて、2時間以上は確保する必要がある。また、他教科の授業の入れ替えや引率などについては、学年会あるいは職員会議で計画性を持って提案・調整することが必要である。
- 訪問授業では写真パネルを使うことになるが、生徒が座席に座っていたままだと資料を十分に調べることができなくなる。パネルを複数枚用意する、あるいは生徒が席を立てて調べ作業をすすめるなど、博物館職員と相談しながら学級の実態に合わせて展開方法を考慮する必要がある。

＜博物館授業＞ 小学校第2学年生活科 指導カード

1 単元名 「みんなで行こうよ つかおうよ」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 新河岸川河岸場復元模型 (近世展示室)	・ 模型の中にある船（川越ひらた）を探す。	・ 低学年の児童には難しく感じられる博物館資料の中に、乗り物や動物といった、児童に親しみのあるものが描かれていることを知り、それを探すという目的意識を持って、探検することができるようにする。 ・ 探検することを通して、公共施設の利用の仕方やマナーについて知り行動できるようにする。
(2) 江戸図屏風 (近世展示室)	・ 屏風に描かれた猪や鹿などの動物を探す。 ・ 船や牛車などの乗り物を探す	
(3) 西武鉄道川越駅の写真パネル (近現代展示室)	・ パネルに写っている蒸気機関車を探す。	
(4) 縄文人のくらしのイラストパネル (原始古代展示室)	・ パネルに描かれている狐や兎をなどを探す。	
(5) 川越まつりの面 (民俗展示室)	・ 面に表されている狐や猿などをを探す。	
(6) 馬形埴輪 (原始古代展示室)	・ 埴輪に表されている馬を探す	
(7) 紙本着色平治物語絵巻 (中世展示室)	・ 絵に描かれている牛を探す。 ・ 絵に描かれている牛車を探す	

3 指導計画（11時間扱い）

- (1) えきに行こう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
- (2) けいかくを立てよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
- (3) はくぶつかんをたんけんしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間(本時)
- (4) たんけんをふりかえろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

4 実際の指導（9／11時）

(1) 目 標

＜関＞ 博物館に関心をもち、ルールやマナーを守って大切に利用したり、博物館で働く人々とかわったりしようとしている。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時 間
1 本時のめあてを確認する。 ・めあての理解 ・探検ルールの確認	○館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○探検の仕方や約束について指導する。 ○博物館内の概要を大まかに知らせる。	・探検カード	5 分
はくぶつかんにかざってあるものの中から、のりものやどうぶつをさがそう。			
2 グループごとに探検をする。 ・「乗り物探し」「動物探し」の課題別グループによる探検 ・探検カードへの記入	○館内には自分たちだけでなく、多くの利用者が来ていることに気づかせる。 □グループの状況に応じて、探している資料のヒントを提示する。 ○マナーやルールを守っているグループを称賛する。 ○見つけた資料について、さらに細かい点まで観察している児童を称賛する。 ◎児童にとって親しみのある乗り物や動物を探すことで、昔の様子に興味を持てるようにする。 ☆ルールやマナーを守って見学し、分からないことを解説員に質問したりして、自分からかかわろうとしている。(関)	・新河岸川河岸場復元模型 ・江戸図屏風(近世展示室) ・西武鉄道川越駅写真パネル(近現代展示室) ・縄文人のくらしパネル ・馬形埴輪(原始古代展示室) ・川越まつりの面(民俗展示室) ・紙本着色平治物語絵巻(中世展示室)	35 分
3 本時の活動を振り返る。 ・探検結果の確認 ・感想発表	○探検カードで提示された資料が見つけれられたか確認し、称賛したり、広めたりする。 □多くの児童が見つけれなかった資料について、説明する。 ○解説員へ質問したにするなど、自分から積極的にかかわることができたか確認し称賛する。 ☆見つけたものを進んで発表したり、友達の発表に、興味を持って聞こうとしている。(関)	・探検カード	5 分

<訪問授業> 小学校第2学年 生活科 指導カード

1 単元名 「花や野菜を育てよう」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 昔の農具 ① 鋤 (1989-006-0004) ② 馬鋤 (1991-032-0001) ③ 土竜取 (1988-007-0016) ④ 芋切機 (1991-017-0002) ⑤ 小豆扱箸 (1994-020-0007) ⑥ 唐箕 (1988-001-0001)	- 各資料(農具)を提示し、名前や使い方について、博物館職員から話を聞く。 - 地域のお年寄りから、使用した経験のある農具について、使い方等の話を聞く。 - 各資料を観察したり、触れたりしながら「クイズカード」の問題に取り組む。 - 現在の道具と比較し、相違点を見つける。	- 博物館職員や地域の方々から資料についての情報を得る過程を通して、人との関わり方について学べるようにする。 - 博物館職員の説明により、博物館での仕事の様子に気づくことができる。 - 相手や目的に応じた伝え方がわかり、互いに交流することの良さに気づくことができる。

3 指導計画（8時間扱い）

- (1) さつまいもを植えよう。…………… 1時間
- (2) 河原ナデシコを植えよう。…………… 1時間
- (3) 昔の道具クイズを作ろう。…………… 2時間(本時)
- (4) 野菜を収穫して食べよう。…………… 2時間
- (5) 畑の様子を観察しよう。…………… 1時間
- (6) 校庭で秋を探そう。…………… 1時間

4 実際の指導（3・4／8時間）

(1) 目 標

- <関> 昔の農具について調べる過程を通して、身近な人々との関わりに関心を持ち、進んで交流しようとしている。
- <思> 当時の人々の工夫や努力について、自分なりに考えたり、振り返ったりすることができる。
- <気> 身近な人々とかかわることの楽しさがわかり、互いに交流することのよさに気付くことができる。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 本時の活動を確認する。 ・課題の把握	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○昔の道具について調べる、クイズをグループで解きながら進めることを確認する。	・ワークシート	5分
畑仕事に使った昔の道具について、クイズをしながら調べてみよう。			
2 昔の道具について、博物館職員の解説を聞く。 (1) 各資料の名称・使い方 ① 鋤 ② 馬鋤 ③ 土竜取 ④ 芋切機 ⑤ 小豆扱箸 ⑥ 唐箕	○資料が見やすい位置に児童を誘導する。 □資料の名称・使い方を簡単に紹介する。 ◎実物資料を直接見るにより、当時の生活についての関心を高める。 □川越名産の芋を作った人物の話などを織り交ぜて道具についての解説をする。 ☆お年寄りや博物館職員とかかわることの楽しさがわかり、互いに交流することのよさに気付くことができる。(気)	・ 鋤 ・ 馬鋤 ・ 土竜取 ・ 芋切機 ・ 小豆扱箸 ・ 唐箕 (実物資料)	15分
3 クイズカードをもとに、各資料について調べる。 (1) 各資料の特徴	○各資料の特徴(重さ、長さ、持ち方等)に気づけるクイズ形式のカードを活用して調べるようにする。 □クイズの解答のヒントを提示する。 ○答えが見つからず、活動が停滞しているグループに声かけを行う。 ◎近くで見たり、触れることにより五感を使った調べ活動ができる。	・ クイズカード ①	25分
4 クイズの答えを確認する。 (1) 解答の確認	○お年寄りに聞いたり、博物館職員に答えを確認するように促す。 □クイズの解答を発表する。		10分
5 グループごとに、各資料についてのクイズをつくる。 (1) 問題の作成	○調べたてみてわかったことや、不思議に思ったこと、特徴をクイズで表現できるようにする。 ☆当時の人々の工夫や努力について、自分なりに考えたり、振り返ったりしながら問題を作ることができる。(思)		10分
6 クイズ内容を発表し解き合う。 (1) 作成したクイズの発表 (2) 提示された新しい問題の解答 (3) 新たなクイズの解答	○使い方などの実演を見せながら、発表できるようにする。 ○安全に活動できるように注意をはらう。 ☆興味を持ったことを相手に伝えようとしている。(関)	・ クイズカード ②	20分
7 本時の学習を振り返る。 ・ わかったこと ・ 感想カードの記入	○博物館職員や地域の方々と交流したことによる成果を確認する。 ○感想カードを記入することにより、自己の学習を振り返りかえられるようにする。	・ 感想カード	10分

<訪問授業を実施した場合による「学習効果と留意点」>

■学習効果

- 博物館職員や地域のお年寄りと活動することにより、地域の様々な人や場所が自分の生活と深く関わっていることに気付くことができる。
- 博物館の資料をとおして、道具の移り変わりに気づき、人々の苦労や工夫について考えることができる。
- 博物館職員や地域のお年寄りから話を聞いたり、会話したりすることにより、地域をより身近に感じ、親しみや愛着を持つことができる。
- 自分が住んでいる地域に昔からある、生活の知恵に触れることができる。
- グループ活動を行うことにより、友達と協力することの意味や大切さを理解することができる。

■留意点

- 登場する場面や話の内容等、博物館職員と地域のお年寄りの役割を事前に明確にしておく必要がある。
- 博物館の資料(道具)の吟味や、授業での展示の仕方等を事前に十分考え、工夫できるようにする。
- 実際に使用されていたものに触れられるようにする。
- 姿形は違えど、現在の道具と同じ仕事に使うもの（鍬や鋤など）があることに気づくようにする。
- 昔の道具の使い方等については、第3学年社会科の「くらしの様子の変り変わり」で学習するため、本単元では深入りしないようにする。

<訪問授業で活用する「博物館収蔵資料」>



①鍬



②馬鍬



③土竜取



④芋切機



⑤小豆扱箸



⑥唐箕

<博物館授業を実施した場合による「学習効果」>

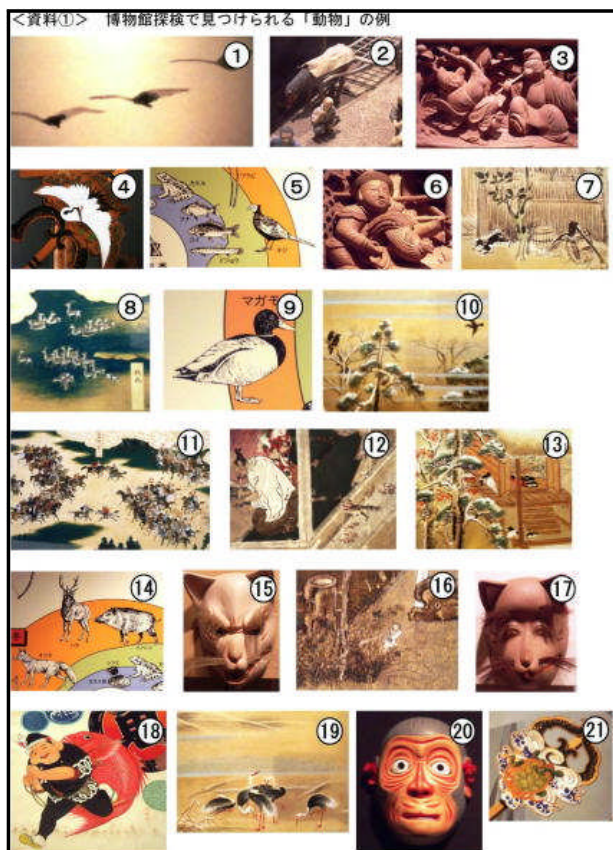
- 「公共物や公共施設はみんなのものであること」について実感できるとともに、公共物や公共施設を実際に利用することにより、社会生活の基本のルールやマナーを身につけることができる。
- 探検カードを使って博物館を活用することにより、興味を持ち、意欲的に行動することができる。
- 動物や乗り物など、児童にとって身近なものの見つける活動を取り入れることにより、博物館の資料を身近に感じることができる。
- 博物館職員に質問し、調べる活動を取り入れることにより、積極的に行動できる。

<博物館授業を実施する場合の「留意点」>

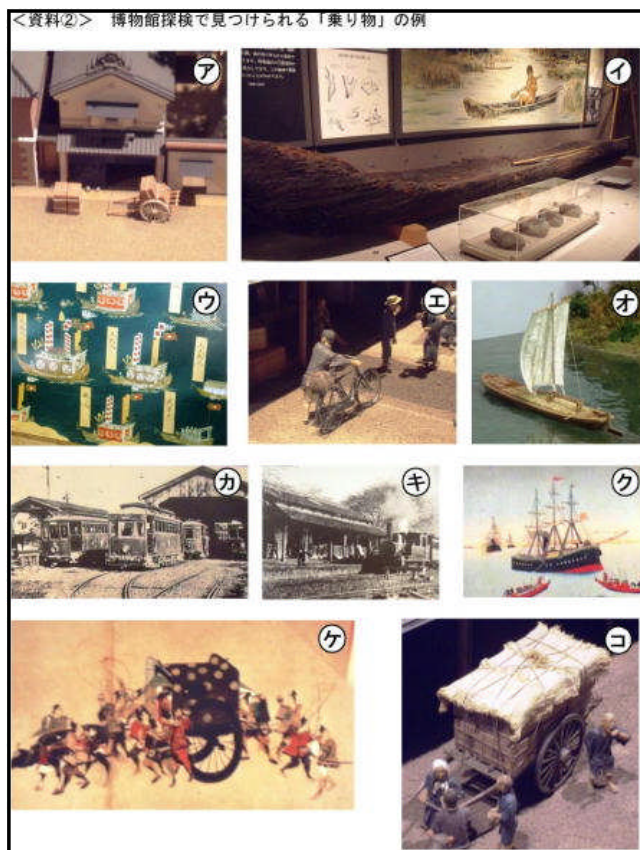
- 博物館への移動方法や、安全面を配慮した引率者数、要する時数等、計画段階での細かい打合せが必要である。
- 実施については、学校行事との連携も視野に入れて計画を練る必要がある。
- 児童への支援として、博物館職員の役割を明確にする必要がある。

<博物館授業での活用できる展示資料例>

①「動物」が描かれている展示資料



「乗り物」が描かれている展示資料②



<博物館授業>

小学校第 6 学年 外国語活動 指導カード

1 単元名 『Hi Friends！ 4』 Lesson 4 “ Turn right. ” 「道案内をしよう」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 城下町模型 ○本丸御殿 (2) 城下町模型 ○菓子屋横丁 (3) 天海僧正座像 (4) 舟運河岸復元模型 ○新河岸川の舟運 (近世展示室) (5) 蔵造り町並み模型 ○時の鐘 (近現代展示室) (6) 第八十五国立銀行 ○埼玉りそな銀行 (7) 川越駅 (近現代展示室) (8) 蔵造り模型 (9) 川越の職人 ○いもせんべい (民俗展示室) (10) 石室模型 ○南大塚古墳 (原始古代展示室)	・ 4 人 1 組（紹介担当 2 名、案内担当 1 名、見学担当 1 名）のグループを作り、紹介担当になった児童が各資料を分担し、訪れた旅行者担当に資料を紹介する。 ・ 各資料の展示場所を訪問先に見立て、案内担当が誘導して活動する。 ・ 案内担当が誘導してきた旅行者担当に対して、資料の名称を英語で紹介する。 (旅) What is this ? (写) This is ○○ . ・ 資料について、簡単な紹介をする。	・ 道案内で紹介する事例物として川越を代表する建物や、町の様子、地域に残る文化財を取り上げることにより、自国文化への興味関心を高められるようにする。
(11) 城下町模型 (近世展示室)	・ 博物館職員より、江戸時代末期町のまちの様子について説明する。 ・ 現在も残る「通り」「建物」を中心に解説する。	・ 江戸時代末期の町の様子と、活動に取り上げた 10 か所の場所を比較することにより、川越には古くから残る文化財が多いことを再認識し、郷土への関心を高められるようにする。

3 指導計画（5 時間扱い）

- (1) 町中にある様々な建物などの言い方に興味を持ち、理解する。…………… 1 時間
- (2) 方向や動きを指示する表現を知る。…………… 1 時間
- (3) 方向や動作を指示する英語を使って、相手に目的地を伝える。…………… 1 時間
- (4) 案内の疑似体験を通して、既習内容の深化を図る。…………… 2 時間(本時)

4 指導の実際（4・5 / 5 時）

(1) 目 標

<慣れ親しみ> 英語を使って目的地への道案内をする。

< 気づき > 川越の町を模した場による道案内体験を通して、地域に愛され、現在も残りつづける文化財の存在に気づき、自国文化への関心を高める。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 Greetings ・はじめのあいさつ	○A E Tとあいさつをし、授業への気持ちを高める。 (T) Let's start English. Good morning, everyone ! (C) Good morning. (T) How are you doing ? (C) I'm pretty good. □楽しい雰囲気と一緒に挨拶をする。		10分
2 Review/Practice (1) 本時のめあての確認 (2) 前時の復習 ①建物の言い方 ②建物や場所の尋ね方 ③方向指示の仕方	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○前時までに学習した内容がわかる掲示資料を活用し、既習内容を想起する。 ○本時は既習内容を総合的に活用した学習になることを確認する。	・前時までの学習内容がわかる資料	
今までの学習を生かして、博物館を案内してみよう。			
3 Activity (1) 資料の紹介 (2) 見学者の誘導 (3) 案内担当への質問 (紹介担当：A B) ■訪問したDの質問について、担当する資料の名称を英語で答える。 ■資料の簡単な説明を日本語で紹介する。 (案内担当：C) ■Dに行きたい場所を聞き、そのコーナーまで英語で誘導する。 ■制限時間まで繰り返し案内し続ける (見学担当：D) ■Cに行きたい場所を提示し、指示に従って移動する。 ■A Bに資料の質問を英語でする。	○4人1組(紹介担当2名、案内担当1名、旅行担当1名)のグループを作り、3つの役を交代しながら活動するように説明する。 ○担任・A E T・博物館職員で、活動の仕方を説明する。 (案) Turn right/left. Go straight/Stop Good job/Well done/Wonderful Excellent 等 (見) Where is this ? (紹) This is ○○○ . 資料の紹介を日本語で行う (見) Thank you. ○デモンストラーションの後、児童と一緒に練習をする。 □各資料のコーナーを巡回し、支援する。 ◎展示資料を用いることにより、わかりやすい紹介にする。 ○全ての場所に偏りなく回れるように案内をする児童にアドバイスをする。 ☆建物の名称を英語で紹介し、特徴を説明している。(慣れ親しみ) ☆案内体験を通して、現在も残りつづける文化財の存在に気づき、自国文化への関心を高めている。(気づき)	・ワークシート ・城下町模型 ・天海僧正座像 ・舟運河岸復元模型 (近世展示室) ・蔵造り町並み模型 ・第八十五国立銀行 ・川越駅古写真 (近現代展示室) ・蔵造り模型 ・川越の職人 (民俗展示室) ・石室模型 (原始古代展示室)	60分
4 博物館職員から江戸時代末期のまちの様子についての話を聞く。 (1) 当時との比較 (2) 現在も残る文化財	○今回紹介した「通り」や「建物」と比較しながら話を聞くようにする。 □本時の学習に関連させながら、城下町川越の特徴を説明し、現在も残る文化財を紹介する。	・城下町模型 (先生展示室)	15分
5 本時の学習を振り返る。 ・感想発表 ・終わりのあいさつ	○感想を発表する児童を指名する。 ○積極的に活動していたグループを賞賛する。 ○日直の支援をする。		5分

<訪問授業>

小学校第6学年 外国語活動 指導カード

1 単元名 『Hi Friends! 4』 Lesson 4 “ Turn right. ” 「道案内をしよう」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 建物の写真パネル ①本丸御殿 ②時の鐘 ③喜多院 ④蔵造り ⑤川越まつり会館 ⑥博物館 ⑦美術館 ⑧菓子屋横丁 ⑨埼玉りそな銀行 ⑩市役所 ⑪川越駅東口 ⑫南大塚古墳	・ 3人1組（紹介担当1名、案内担当1名、旅行担当1名）のグループを作り、紹介担当になった児童が各資料を分担し、訪れた旅行者担当に資料を紹介する。 ・ 各資料の展示場所を訪問先に見立て、案内担当が誘導して活動する。 ・ 案内担当が誘導してきた旅行者担当に対して、資料の名称を英語で紹介する。 (旅) What is this ? (写) This is ○○ . ・ 資料に付属している紹介文を参考に、資料の簡単な紹介をする。	・ 道案内で紹介する事例物として川越を代表する建物や、町の様子、地域に残る文化財を取り上げることにより、自国文化への興味関心を高められるようにする。
	・ 12パネルの内、博物館職員とAETが1カ所ずつ担当し活動の仕方を例示できるようにする。	・ 博物館職員やAETが訪問先を担当することにより、細やかな活動支援を行うことができる。
(2) 関東実測図(M14) (写真パネル)	・ 博物館職員より、明治初期の町の様子について説明する。 ・ 現在も残る「通り」「建物」を中心に解説する。	・ 明治初期の町の様子と、活動に取り上げた12カ所の場所を比較することにより、川越には古くから残る文化財が多いことを再認識し、郷土への関心を高められるようにする。

3 指導計画（4時間扱い）

- (1) 町中にある様々な建物などの言い方に興味を持ち、理解する。…………… 1時間
- (2) 方向や動きを指示する表現を知る。…………… 1時間
- (3) 方向や動作を指示する英語を使って、相手に目的地を伝える。…………… 1時間
- (4) 道案内の疑似体験を通して、既習内容の深化を図る。…………… 1時間(本時)

4 指導の実際（4／4時）

(1) 目 標

<慣れ親しみ> 英語を使って目的地への道案内をする。

<気づき> 川越の町を模した場による道案内体験を通して、地域に愛され、現在も残りつづける文化財の存在に気づき、自国文化への関心を高める。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 Greetings ・はじめのあいさつ	○A E Tとあいさつをし、授業への気持ちを高める。 (T) Let's start English. Good morning, everyone ! (C) Good morning. (T) How are you doing ? (C) I'm pretty good. □楽しい雰囲気と一緒に挨拶をする。		7分
2 Review/Practice (1) 本時のめあての確認 (2) 前時の復習 ①建物の言い方 ②建物や場所の尋ね方 ③方向指示の仕方	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○前時までに学習した内容がわかる掲示資料を活用し、既習内容を想起する。 ○本時は既習内容を総合的に活用した学習になることを確認する。	・前時までの学習内容がわかる掲示資料	
今までの学習を生かして、川越のまちを道案内してみよう。			
3 Activity (1) 資料の紹介 (2) 旅行担当の誘導 (3) 案内担当への質問 (紹介担当：A) ■訪問したCの質問について、担当する資料の名称を英語で答える。 ■資料の簡単な説明を日本語でする。 (案内担当：B) ■Cに行きたい場所を聞き、そのコーナーまで英語で誘導する。 ■制限時間まで繰り返し案内し続ける (旅行担当：C) ■Bに行きたい場所を提示し、指示に従って移動する。 ■Aに資料の質問を英語でする。	○3人1組のグループを作り、3つの役を交代しながら活動するように説明する。 ○担任・A E T・博物館職員で、活動の仕方を説明する。 □「紹介役」を担当し、例示する。 (案) Turn right/left. Go straight/Stop Good job/Well done/Wonderful Excellent 等 (旅) Where is this ? (紹) This is ○○○○. 建物の紹介を日本語で行う (旅) Thank you. ○デモンストラーションの後、児童と一緒に練習をする。 ◎旅行者の行き先を選んだり、建物や場所の名称を答えたりする際、写真パネルを用いてわかりやすくする。 □「蔵造り資料館」の紹介役を担当し、建物の特徴も合わせて紹介する。 ○博物館職員とA E Tの場所には必ず行くように促す。 ○全ての場所に偏りなく回れるように案内をする児童にアドバイスをする。 ☆建物の名称を英語で紹介し、特徴を説明している。(慣れ親しみ) ☆道案内体験を通して、現在も残りつづける文化財の存在に気づき、自国文化への関心を高めている。(気づき)	・ワークシート ・建物の写真パネル ①本丸御殿 ②時の鐘 ③喜多院 ④蔵造り ⑤川越まつり会館 ⑥博物館 ⑦美術館 ⑧菓子屋横丁 ⑨埼玉りそな銀行 ⑩市役所 ⑪川越駅東口 ⑫南大塚古墳	25分
4 博物館職員から江戸時代のころの川越のまちの様子についての話を聞く。 (1) 明治初期の川越 (2) 現在も残る	○今回紹介した「通り」や「建物」と比較しながら話を聞くようにする。 □本時の学習に関連させながら、城下町川越の特徴を説明し、現在も残る文化財を紹介する。	・関東実測図(写真パネル)	8分
5 本時の学習を振り返る。 ・感想発表 ・終わりのあいさつ	○感想を発表する児童を指名する。 ○積極的に活動していたグループを賞賛する。 ○日直の支援をする。		5分

<博物館授業> 中学校第2学年英語科 指導カード

1 単元名 Program11 Yui-To Share Is to Live.

2 活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
(1) 川越祭りの映像 (民族展示室)	・博物館職員の説明を聞きながら全員に映像を見せる。	・英語を通して、川越まつりについて紹介することにより、川越や英語を身近に感じることができる。
(2) 木造天海僧正座像 (近世展示室)	・最初は博物館職員がパネルの一部を全員に5枚見せる。	・郷土川越の文化や歴史について英語で理解することができる。
(3) 蔵造りの町並み模型 (近・現代展示室)	・各班ごとに博物館の中を見学しながら問題を解く。各班の解答時間は7分とする。	・日本語と英語による展示物についての説明を聞き、要点をメモする。
(4) 城下町模型 (近世展示室)	・各班ごとに、関係のある絵や展示物の近くで生徒が英語で説明をした後に答え合わせを行う。	
(5) 三十六歌仙額 (近世展示室)	・ホールに集まり、博物館職員がパネルを持ちながら、それぞれのパネルや展示品等について解説を行う。	

3 指導計画（6時間扱い）

- (1) 受け身(b yを使わない形式等)の用法の理解、川越の文化や歴史を学ぶ・・・1時間（本時）
- (2) 教科書本文の理解、応用（P11-1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (3) 受け身(b yを使う形式)の用法の理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (4) 教科書本文の理解、応用（P11-2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (5) 教科書本文の理解、応用（P11-3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (6) 受け身の文のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

4 実際の指導（1／6時間）

(1) 目標

- <関> 川越についての興味、関心を高め、課題に積極的に取り組もうとしている。
- <表> 「～される、された」と受け身を表す受動態について表現できる。
- <知> 受け身の表現を使った文の意味と用法を理解することができる。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 Greeting ・英語であいさつ	○挨拶をする。 □楽しい雰囲気と一緒に挨拶をする。		5分
2 Theme ・本時のめあての確認	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介する。 Today's theme is ~.		
受け身の文を使って、英語でわが町川越を学ぼう。 Let's learn about Kawagoe by using English in the passive tense.			
3 Activity (1) 受動態の説明を聞き、用法を考える。 ・「Who am I ?」を使って、受け身の文を作る。	○受け身を表す働きをする「～させる(させた)」を理解させる。 My city <u>is visited by</u> many people. My event <u>is held for</u> Hikawa Shrine. be動詞＋過去分詞(＋by) ○必要に応じて質問に答える。	・川越まつりの映像 (民俗展示室)	10分
(2) 受け身の文を使って、川越の特長を紹介する。 「We are Kawagoe tour conductor!」 ・「Who am I ?」を使って、グループでクイズ大会をする。 ・グループごとに英語でクイズを発表する ・JTEからよかったグループを発表する。	□川越に関わりの深い人物や有名な場所等のパネルや展示品等を見せ、説明する。 ①Who am I ? (喜多院) … 1 班 ②Who am I ? (時の鐘) … 2 班 ③Who am I ? (本丸御殿) … 3 班 ④Who am I ? (蔵造り) … 4 班 ⑤Who am I ? (仙波東照宮) … 5 班 ◎川越の文化や縁のある人物等を英語で紹介し、川越や英語を学ぶことへの関心を高める。 ☆川越の文化や歴史について興味を持ち、課題に積極的に取り組もうとしている。(関) ○ワークシート(ゲーム)の方法を理解させ、ゲームができるように助言する。 □各発表グループを回りながら解説を加えたりする。 ○大きな声で正しく発音させる。 ○グループの発表をしっかりと聞き、クイズの問題に答える。 ☆進んで英語の質問に答え、受動態の用法を理解し、表現している。(表・知)	・木造天海僧正座像 (近世展示室) ・城下町模型 (近世展示室) ・蔵造りの町並み模型 (近・現代展示室) ・三十六歌仙額 (近世展示室)	30分
4 Self Evaluation	○学習のまとめをし、本時の学習を振り返らせる。		5分
5 Greeting	○各グループの頑張りをほめる。		

＜訪問授業＞ 中学校第2学年英語科 指導カード

1 単元名 Program11 Yui-To Share Is to Live.

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 川越まつり (写真パネル)	・ 博物館職員の説明を聞きながら 全員にパネルを見せる。	・ 英語を通して、川越まつりに ついて紹介することにより、 川越や英語を身近に感じるこ とができる。
(2) 喜多院 (写真パネル)	・ 最初は博物館職員がパネルの一 部を全員に6枚見せる。	・ 郷土川越の文化や歴史につい て英語で理解することができ る。
(3) 菓子屋横丁 (写真パネル)	・ 各班ごとに生徒が英語で説明を した後に答え合わせを行う。	・ 日本語と英語による写真パネ ルについての説明を聞き、要 点をメモする。
(4) 時の鐘 (写真パネル)	・ 博物館職員がパネルを持ちなが ら、それぞれのパネルについて 解説を行う。	
(5) 本丸御殿 (写真パネル)		
(6) 蔵造り (写真パネル)		
(7) 仙波東照宮 (写真パネル)		

3 指導計画（6時間扱い）

- (1) 受け身(b yを使わない形式等)の用法の理解、川越の文化や歴史を学ぶ・・・1時間（本時）
- (2) 教科書本文の理解、応用（P11-1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (3) 受け身(b yを使う形式)の用法の理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (4) 教科書本文の理解、応用（P11-2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (5) 教科書本文の理解、応用（P11-3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (6) 受け身の文のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

4 実際の指導（1／6時間）

(1) 目標

＜関＞ 川越についての興味、関心を高め、課題に積極的に取り組もうとしている。

＜表＞ 「～される、された」と受け身を表す受動態について表現できる。

＜知＞ 受け身の表現を使った文の意味と用法を理解することができる。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 Greeting ・英語であいさつ 2 Introduction ・BINGO(受け身や川越に関係のある語を入れたビンゴゲーム) 3 Theme ・本時のめあての確認	○挨拶をする。 □楽しい雰囲気と一緒に挨拶をする。 ○英語を聞き取れているか、正確に英語を言っているかを確認する。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介する。 Today's theme is ～.		10分
受け身の文を使って、英語でわが町川越を学ぼう。 Let's learn about Kawagoe by using English in the passive tense.			
4 Activity (1) 受動態の説明を聞き、用法を考える。 ・「Who am I ?」を使って、受け身の文を作る。	○受け身を表す働きをする「～させる(させた)」を理解させる。 My city <u>is visited by</u> many people. My event <u>is held for</u> Hikawa Shrine. be動詞＋過去分詞＋by ○必要に応じて質問に答える。	・川越まつり (写真パネル)	10分
(2) 受け身の文を使って、川越の特長を紹介する。 「We are Kawagoe tour conductor!」 ・「Who am I ?」を使って、グループでクイズ大会をする。 ・グループごとに英語でクイズを発表する ・JTEからよかったグループを発表する。	□川越祭りのパネルを見せ、説明する。 ①Who am I ? (喜多院) ②Who am I ? (菓子屋横丁) ③Who am I ? (時の鐘) ④Who am I ? (本丸御殿) ⑤Who am I ? (蔵造り) ⑥Who am I ? (仙波東照宮) ◎川越の文化や縁のある人物等を英語で紹介し、川越や英語を学ぶことへの関心を高める。 ☆川越の文化や歴史について興味を持ち、課題に積極的に取り組もうとしている。(関) ○ワークシート(ゲーム)の方法を理解させ、ゲームができるように助言する。 □各発表グループを回りながら解説を加えたり紹介する道具を見せたりする。 ○大きな声で正しく発音させる。 ○グループの発表をしっかりと聞き、クイズの問題に答える。 ☆進んで英語の質問に答え、受動態の用法を理解し、表現している。(表・知)	・喜多院 (写真パネル) ・菓子屋横丁 (写真パネル) ・時の鐘 (写真パネル) ・本丸御殿 (写真パネル) ・蔵造り (写真パネル) ・仙波東照宮 (写真パネル)	25分
5 Self Evaluation 6 Greeting	○学習のまとめをし、本時の学習を振り返らせる。 ○各グループの頑張りをほめる。		5分

成果と課題

小学校第6学年 外国語活動「訪問授業」の実践

<実践の様子>

- 多くの児童が、実際に町歩きを想定した授業に意欲的に、楽しみながら参加していた。
- 自分がくらす川越の建物を英語で表現する活動に興味を持ち、A E Tに積極的に質問していた。
- 博物館職員とA E Tが担当する場所を必須にしたことにより、学習方法を理解することができ、友達同士での活動の役に立っていた。
- 江戸時代に描かれた「川越城下町絵図」をもとにした博物館職員解説に、高い興味を示し、質問したり、頷いたりしていた。
- 児童の感想の中に、「英語で川越の街の表現ができてよかった」という表記が多くあった。



<成 果>

- 建物や文化財の写真パネルを用いたことにより、会話によるコミュニケーションを円滑に進めることができた。
- ペア学習は、自分からコミュニケーションを取ることが難しい児童の意欲化を図る意味で有効であった。
- 活動後の自己評価を見ると、児童の意欲を高め、興味を持って活動できる題材であることが分かった。



<課 題>

- 授業中でのスタンプの活用は、意欲付けとなる反面、スタンプ集めが目的となり、本来の目的と違う活動をしてしまう児童の姿も見られた。
- 本時では特別教室を使用したことにより空間に余裕ができ、円滑な活動につながった。計画の段階で、特別教室を確保する必要がある。
- 博物館職員の活用が一部の写真の説明と、江戸時代の城下町の説明であり、用意した多くの資料は児童間で見合うだけになってしまった。資料をより効果的に活用できる授業展開を考える必要がある。
- 外国語の学習として、さらに多くの表現活動を取り入れるための展開について、今後も継続して研究していく。



活動を振り返ろう

- ペアの友達と協力できましたか (5・4・3・2・1)
- 相手の目を見て話せましたか (5・4・3・2・1)
- 友達や先生の話をしっかり聞くことができました (5・4・3・2・1)
- 楽しく活動できましたか (5・4・3・2・1)

一言感想

川越の町の英語が知れたて良かったです。

先生たちにも、質問できたので、英語で知らなかった言葉が知れた。

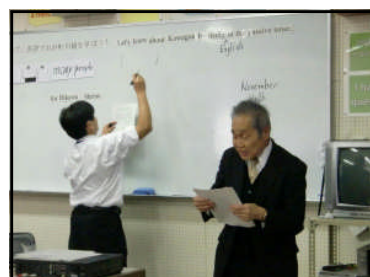
<実践の様子>

- 生徒たちは好奇心に溢れ、キラキラした目を輝かせながら学習に参加していた。
- 初めてのものを見たり、触れたりした感動や、新しい発見の中で理解できた充実感を感じた生徒が多かった。
- 英語で川越について発表する場面では、全員の生徒が英文を覚え、緊張しながらも堂々と英語で発表することができた。
- 博物館職員との交流により、興味関心を持って授業に取り組む生徒が多かった。



<成 果>

- 「喜多院」「時の鐘」「本丸御殿」等、川越の名所を題材として活用したことにより、川越についてより深く知り、川越への興味関心が高まった生徒が増えた。地域への誇りや愛情を持ち、愛国心を高めるよいきっかけになったと考える。
- 英語を使って各資料を説明したことにより、表現力が伸び、今後の英語に対する自信を持てた生徒が増えた。
- 「受け身の文」は中学生にとって難しいと感じる文法事項の学習であるが、身近な題材を取り入れたことにより、興味関心が高まり、抵抗感なく学習することができた。



<課 題>

- 川越を題材とした学習を、計画的・系統的に年間指導計画に位置づけることにより、さらに教育的効果が期待できると思われる。
- 日常会話におけるコミュニケーション活動が中心となる授業を展開しているため、歴史や文化を題材とした英語を通して見聞きしたり、発表したりする学習は生徒にとっては不慣れであるとともに、語彙力が不十分な生徒にとっては負担が大きく、授業が難しいと感じた生徒もいた。
- 英語4技能の総合的な育成という面から考えると、川越を題材として活用し、英語で問答したり、説明したり、発表したりする力をつけるためには、3年間を見通した年間指導計画の作成が必要である。

＜博物館授業＞ 小学校第5学年 図画工作科 指導カード

1 題材名 ねん土に自分の気持ちをこめて

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 縄文土器 ①深鉢形土器(3) (原始古代展示室)	・縄文土器が展示してあるコーナーに集まり、博物館職員から縄文土器の意味や目的について、簡単な解説を聞く。	・縄文土器の解説から、大昔の人々も粘土を利用して様々な焼きものを作っていたことを知る。
	・縄文土器の形状や模様について調べる。	・縄文土器の形状や模様から、作り方や製作者の思いについて、自由に想像し、児童の興味関心を高める。
(2) 埴輪 ①形象埴輪 ・男子埴輪(1) ・女子埴輪(1) ・馬形埴輪(2) ・家形埴輪(1) ・太刀形埴輪(1) ②円筒埴輪 ・壺形埴輪(2) ・朝顔形埴輪(2) ・円筒埴輪(7) (原始古代展示室)	・埴輪が展示してあるコーナーに集まり、博物館職員から埴輪の意味や目的についての簡単な解説を聞く。	・埴輪についての解説から、当時の人々の思いが形となって表されていることを知る。
	・様々な種類の埴輪を見て、埴輪の形状について調べる。	・埴輪の形状から、作り方や製作者の思いについて、自由に想像し、児童の興味関心を高める。 ・展示資料を隅々まで見ることで、模様や形に目を向け、おもしろさを味い自分の制作につなげられるようにする。

3 指導計画（3時間扱い）

- (1) 実際に埴輪や土器を見て、思いや表現の仕方を考える。…………… 1時間（本時）
- (2) 材料の扱い方や作り方を工夫して、創造を広げながらつくる。……………
- (3) 自他の作品を鑑賞し、感想を述べ合う。…………… } 2時間

4 指導の実際（1／3時）

(1) 目 標

- ＜関＞ 様々な埴輪や土器の形状や模様の観察を通して、製作者の思いや願いを想像し、粘土で立体に表すことへの関心をもとうとする。
- ＜鑑＞ 埴輪や土器の模様や形のおもしろさを感じたり、埴輪や土器にこめられた思いや願いを想像したりする。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 提案を聞き、本時の見通しを持つ。 ・提案の把握 ・学習活動の紹介	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○博物館での約束を再確認する。 ○本時の学習活動を紹介し、学習の流れを理解できるようにする。		3分
いろいろな焼き物のおもしろさ調査しよう。			
2 大昔につくられた粘土を使った焼きものについて解説を聞く。 (1) 縄文土器 ①名称 ②意味 ③作り方 ④模様 (2) 埴輪 ①名称 ②意味 ③作り方 ④模様	□縄文土器から埴輪の順に展示資料を紹介し、それぞれの資料について解説する。 ○活動3に向けての資料紹介とし、概要がつかめるように展開する。 □児童の質問に対応する。 ☆博物館職員の解説を聞き、資料への関心を高めている。(関)	・深鉢形土器 ・有孔罍付土器 ・壺 ・埋甕炉 (原始古代展示室)	10分
3 興味のある資料を選択して鑑賞し、模写する。 ①興味のある資料の選択 ②形状や模様の鑑賞 ③形や模様の模写	○解説された資料の中から、興味のある資料を選択させ、鑑賞するようにする。 ○鑑賞の視点を説明し、自由に見させる。 ○気に入った形や模様の模写の際に、選んだ理由や感じたことを記入させる。 ○資料を壊さないように巡視する。 □縄文土器・埴輪の各展示コーナーに1人ずつ配置し、児童の質問に対応する。 ◎実物資料を間近から鑑賞することにより製作者の思いを想像したり、形や模様などの発想のおもしろさを感じ取ることができるようにする。 ☆焼き物の様々な特徴に気づき、色や形など造形的な工夫を見つけている。(鑑) ☆形や模様について意欲的に調べ、模写している。(関) ○色や形、発想のおもしろさなど造形的な気づきを特に評価する。	・男子埴輪 ・女子埴輪 ・馬形埴輪 ・家形埴輪 ・太刀形埴輪 ・壺形埴輪 ・朝顔形埴輪 ・円筒埴輪 (原始古代展示室) ワークシート	20分
4 ワークシートをもとに、自分が感じたことを友達と伝え合う。 ・情報の共有	○体験学習室に移動し、グループごとに感じたことを伝え合うようにする。 □各グループの発表の様子を観察し、資料についての疑問等に対応する。 ○色や形、発想のおもしろさなど造形的な気づきを特に評価する。	・ワークシート	10分
5 次時の予告を聞く。 ・次時の活動の確認	○実際に作品を作り、表すことを伝える。		2分

<訪問授業> 小学校第5学年 図画工作科 指導カード

1 題材名 ねん土に自分の気持ちをこめて

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 縄文土器 ①深鉢形土器 ②縄文土器紋様見本 ③縄文土器破片 (収蔵庫資料)	・縄文土器を提示し、博物館職員から縄文土器の意味や目的について簡単な解説を聞く。	・縄文土器の解説から、大昔の人々も粘土を利用して様々な焼きものを作っていたことを知る。
	・縄文土器の形状や模様について調べる。	・縄文土器の形状や模様から、作り方や製作者の思いについて、自由に想像し、児童の興味関心を高める。
(2) 埴輪 ①形象埴輪 ・男子埴輪 ・女子埴輪 ・馬形埴輪 ・家形埴輪 ・太刀形埴輪 ②円筒埴輪 (写真パネル) ③埴輪破片 (収蔵庫資料)	・様々な埴輪の写真パネルを提示し、博物館職員から埴輪の意味や目的についての簡単な解説を聞く。	・埴輪についての解説から、当時の人々の思いが形となって表されていることを知る。
	・埴輪の写真パネルや実物の破片を見て、埴輪の様子について調べる。	・埴輪の形状から、作り方や製作者の思いについて、自由に想像し、児童の興味関心を高める。 ・実物資料を隔々まで見ることに より、模様や形に目を向け、おもしろさを味い自分の制作につなげられるようにする。

3 指導計画（3時間扱い）

- (1) 実際に埴輪や土器を見て、思いや表現の仕方に関心を持ち、
粘土で箸置きをつくる。…………… 1 時間（本時）
- (2) 材料の扱い方や作り方を工夫して、創造を広げながらつくる。……………
(3) 自他の作品を鑑賞し、感想を述べ合う。…………… } 2 時間

4 指導の実際（1／3時）

(1) 目 標

- <関> 埴輪や土器を見て思いや願いを想像し、粘土で立体に表すことへの関心を高めようとする。
- <鑑> 埴輪や土器の模様や形のおもしろさを感じたり、埴輪や土器にこめられた思いや願いを想像したりする。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 粘土で製作した既習作品を想起する。	○今までの粘土を使った授業を思い出し、粘土のよさやおもしろさを確認し、これからの活動に思いをふくすようにする。		3分
2 提案を聞き、本時の見通しを持つ。 ・提案の把握 ・学習活動の紹介	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○本時の学習活動を紹介し、学習の流れを理解できるようにする。	・作品見本 (箸置き)	
いろいろな焼き物のおもしろさを発見し、自分だけの箸置きをつくろう。			
3 大昔につくられた粘土を使った焼きものについて解説を聞く。 (1) 縄文土器 ①名称 ②意味 ③作り方 ④模様 (2) 埴輪 ①名称 ②意味 ③作り方 ④模様	□縄文土器から埴輪の順に資料を紹介し、解説する。 ○活動3に向けての資料紹介とし、概要がつかめるように展開する。 □児童の質問に対応する。 ☆博物館職員の解説を聞き、資料への関心を高めている。(関)	・深鉢形土器 (実物資料) ・縄文土器紋様見本 ・縄文土器破片 ・女子埴輪 ・馬形埴輪 ・家形埴輪 ・太刀形埴輪 ・円筒埴輪 (写真パネル) ・埴輪実物破片 (実物資料) ワークシート	10分
4 興味のある資料を選択して鑑賞し、模写する。 ①興味のある資料の選択 ②形状や模様の鑑賞 ③形や模様の模写	○解説された資料の中から、興味のある資料を選択させ、鑑賞するようにする。 ○鑑賞の視点を説明し、自由に見させる。 ○気に入った形や模様の模写の際に、選んだ理由や感じたことを記入させる。 ○資料を壊さないように巡視する。 □児童の質問に対応する。 ◎実物資料を間近から鑑賞することにより製作者の思いを想像したり、形や模様などの発想のおもしろさを感じ取ることができるようにする。 ☆焼き物の様々な特徴に気づき、色や形など造形的な工夫を見つけている。(鑑) ☆形や模様について意欲的に調べ、模写している。(関) ○色や形、発想のおもしろさなど造形的な気づきを特に評価する。		17分
4 箸置きをつくる。	○箸置きがイメージできない児童には、箸置きの見本を提示する。 ○作り始められない児童には、土器の模様などを参考にするよう助言する。 □模様の付け方などの質問に対応する。	・箸置き見本 ・粘土(20g) ・あみ ・へら ・粘土板	10分
5 ワークシートをもとに、自分が感じたことを友達と伝え合い、まとめる。 ・情報の共有 ・次時の活動の確認	○グループごとに感じたことを伝え合うようにする。 □各グループの発表の様子を観察し、資料についての疑問等に対応する。 ○次時に、さらに大きな作品を実際に作り表すことを伝える。	・ワークシート	5分

<博物館授業>

中学校第1学年 美術科 指導カード

- 1 題材名 「自分紋のカレンダーの制作」
 ～日本の伝統的な家紋や屋号等をヒントに自分紋をデザインしよう～

2 活用する資料

資料名	活用の仕方	ね ら い
(1) 羽織 ①南町 (1997-015-0028) ②中市本店 (1997-015-0036) ③箕輪 (1997-015-0043) ④細田 (1997-015-0044) ⑤粕谷 (1997-015-0058)	・羽織、半纏の実物資料を体験学習室に展示し、デザイン等の調査をする。 ・博物館職員により、家紋や屋号について説明する。 ・関心を持った家紋や屋号をワークシートに模写する。	・実際に使われている家紋や屋号について、実物資料を活用することにより、自分紋を制作していく意欲や関心を高める。 ・博物館職員による実物資料の説明を通し、日本古来の家紋や屋号がどのような場面で、どのような意味を持って使用されてきたかを知り、自分紋を制作していく意味を理解できるようにする。
(2) 半纏 ①坂鷲 (1997-015-0013)		
(3) 川越町勉強商家寿語録 (近現代展示室)	・寿語録に記入されている商家の屋号を調査する。	
(4) 衣桁 (羽織・半纏の数)	・実物資料を調査する際に、衣桁にかけて展示する。	・借用した資料を保全する。 ・羽織、半纏を個別に観察する際に見やすくする。

3 指導計画（8時間扱い）

- (1) 半纏や羽織を観察し、家紋や屋号の意味や使用例等を理解する。……………1時間(本時)
 (2) 自分紋をデザインする。……………2時間
 (3) 下書きし、カッティングする。……………2時間
 (4) 彩色する。……………2時間
 (5) カレンダーの台紙に貼り付けお互いの作品を鑑賞する。……………1時間

4 指導の実際（1/8時）

(1) 目標

- <関> 日本古来の家紋や屋号等を参考にして、意欲的に学ぼうとしている。
 <鑑> 家紋や屋号等の特徴をとらえて、模写することができる。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 教師の提案を聞き、 本時の活動の見通しを持つ。 ・提案の把握	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介し、生徒を体験学習室に誘導する。 ○ワークシートを配布し、授業の行程を説明する。 □自己紹介をする。	・羽織、5点 ・半纏、1点 (体験学習室) ・ワークシート	5分
日本の伝統的な家紋や屋号をヒントに自分紋をデザインしよう。			
2 ワークシートと実際 の家紋や屋号を見比べて、 説明を聞く。 ・家紋、屋号の意味 ・家ごとによる家紋、 屋号の違い	○ワークシートで日本古来の家紋や屋号についての概要を説明する。 □提示した資料を紹介する。 □家紋や屋号の用途、意味等を解説する。 ☆博物館職員・教員の話から、題材の特徴をつかみ、興味を持って用途や意味を理解しようとしている。(関)	・羽織、5点 ・半纏、1点 (体験学習室) ・ワークシート	20分 20分
3 ワークシートに興味 を持った家紋や屋号を 模写し、その理由を具 体的に記入する。 ・家紋、屋号の特徴	○正確に家紋や屋号等を模写させ、興味を持った理由をワークシートに具体的に記入させる。 □家紋等の細かな特徴等を机間指導しながら助言する。 ◎実際に触れたり、袖を通したりするなど観察だけでなく、生地の様子等を実感できるようにする。 ☆造形的な美しさ、意味と創造的な表現の工夫を感じ取り、正確に模写し、具体的な言葉で書いている。(鑑)	・羽織、5点 ・半纏、1点 (体験学習室) ・川越町勉強商家寿語録 (近現代展示室) ・ワークシート	
4 友達の模写作品を見る。 ・デザインの特徴について の共通理解	○ワークシートに、まとめを記入させる。 ☆家紋や屋号のデザイン的なおもしろさを感じとれている。(鑑)	・ワークシート	5分
5 次時の内容を知る。 ・今後の学習の見通し	○次回の内容を簡単に説明する。		

＜訪問授業＞ 中学校第 1 学年美術科 指導カード

- 1 題材名 「自分紋のカレンダーの制作」
～日本の伝統的な家紋や屋号等をヒントに自分紋をデザインしよう～

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 羽織 ①南町 (1997-015-0028) ②中市本店 (1997-015-0036) ③箕輪 (1997-015-0043) ④細田 (1997-015-0044) ⑤粕谷 (1997-015-0058)	・導入時において、家紋や屋号が記されている羽織や半纏を一斉に提示する。 ・博物館職員により、家紋や屋号について説明する。 ・関心を持った家紋や屋号をワークシートに模写する。	・実際に使われている家紋や屋号について、実物資料を活用することにより、自分紋を制作していく意欲や関心を高める。 ・博物館職員による実物資料の説明を通し、日本古来の家紋や屋号がどのような場面で、どのような意味を持って使用されてきたかを知り、自分紋を制作していく意味を理解できるようにする。
(2) 半纏 ①坂鷲 (1997-015-0013)		
(3) 衣桁 (羽織・半纏の数)	・実物資料を調査する際に、衣桁にかけて展示する。	・借用した資料を保全する。 ・羽織、半纏を個別に観察する際に見やすくする。

3 指導計画（8時間扱い）

- (1) 半纏や羽織を観察し、家紋や屋号の意味や使用例等を理解する。…………… 1 時間(本時)
 (2) 自分紋をデザインする。…………… 2 時間
 (3) 下書きし、カッティングする。…………… 2 時間
 (4) 彩色する。…………… 2 時間
 (5) カレンダーの台紙に貼り付けお互いの作品を鑑賞する。…………… 1 時間

4 指導の実際（1/8 時）

(1) 目標

- ＜関＞ 日本古来の家紋や屋号等を参考にして、意欲的に学ぼうとしている。
 ＜鑑＞ 家紋や屋号等の特徴をとらえて、模写することができる。

(2) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 教師の提案を聞き、 本時の活動の見通しを持つ。 ・提案の把握 日本の伝統的な家紋や屋号をヒントに自分紋をデザインしよう。	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○ワークシートを配布し、授業の行程を説明する。	・羽織、5点 ・半纏、1点 ・ワークシート	5分
2 ワークシートと実際 の家紋や屋号を見比べて、 説明を聞く。 ・家紋、屋号の意味 ・家ごとによる家紋、 屋号の違い	○ワークシートで日本古来の家紋や屋号についての概要を説明する。 □提示した資料を紹介する。 □家紋や屋号の用途、意味等を解説する。 ☆博物館職員・教員の話から、題材の特徴をつかみ、興味を持って用途や意味を理解しようとしている。(関)	・羽織、5点 ・半纏、1点 ・ワークシート	20分
3 ワークシートに興味 を持った家紋や屋号を 模写し、その理由を具 体的に記入する。 ・家紋、屋号の特徴	○正確に家紋や屋号等を模写させ、興味を持った理由をワークシートに具体的に記入させる。 □家紋等の細かな特徴等を机間指導しながら助言する。 ◎実際に触れたり、袖を通したりするなど観察だけでなく、生地の様子等を実感できるようにする。 ☆造形的な美しさ、意味と創造的な表現の工夫を感じ取り、正確に模写し、具体的な言葉で書いている。(鑑)	・羽織、5点 ・半纏、1点 ・ワークシート	20分
4 友達の模写作品を見る。 ・デザインの特徴について の共通理解	○ワークシートに、まとめを記入させる。 ☆家紋や屋号のデザイン的なおもしろさを感じとれている。(鑑)	・ワークシート	5分
5 次時の内容を知る。 ・今後の学習の見通し	○次回の内容を簡単に説明する。		

<授業の様子>

- 博物館にある実物資料を見たり、職員の土器についての説明を受け、模様と模様を付ける方法（ひも、貝等で型押しをする）について学習した。
- 大きな土器のレプリカを見せたときは、児童から驚きの声が上がった。
- 製作作業では、意欲的に始める児童が多かった。
- 試してみたいことがたくさんあり、箸置きを作る時間が10分では、終了できなかった。



<成 果>

- はじめに大きな土器のレプリカや、たくさんの模様見本を見せることによって、児童の驚きや焼き物に関する意欲関心を一気に高めることができた。
- 模様見本や模様を付ける道具（いろいろな材質のひもや貝等）を借用できたことにより、様々な型押しの方法に触れ、実際に体験する中で、自分なりの工夫を加え、組み合わせた模様を作ることができた。
- 自分の好きな形や模様を使って、自分だけの表現を試行錯誤し、作品を製作することができた。



<課 題>

- 土器や模様をじっくり見たり、よさやおもしろさを味わえるようにするためには、時間が短かった。模様を見たり写したりする時間を1時間、実際に試す体験をする時間を1時間確保する必要がある。
- 実物を見ることによって、焼き物に関心を向けることはできたが、思いや願いなどをじっくり想像する時間が確保できなかった。設計図、試作、本作とつなげていく授業の再構成が課題である。
- 気持ちを形に表すためには、本時の学習の中に模様や形から感じる様々なイメージを話し合う場面も設定する必要がある。



成果と課題

中学校第1学年 美術科「訪問授業」の実践

<授業の様子>

- 博物館に収蔵されている羽織5点、半纏2点を本校の美術室に展示して、そこに使われている日本古来の家紋や屋号について学習した。
- 生徒は何世紀以上も前に地元川越市で実際に使用されていた羽織や半纏を目の当たりにし、布に触ったり、においをかいだり、ほおずりをしたり、実際に羽おってみたりすることを通して、目を輝かせて活動していた。
- はるか昔の名もなきデザイナーの作品を、感慨深く味わっていた。
- ワークシートを活用して理解を深め、自分が気に入った家紋や屋号を模写することにより、デザインのもつおもしろさや工夫されている点を発見し、自分紋をデザインするためのヒントとした。



<成 果>

- 活用した資料について、学芸員の解説を聞くことにより、資料への関心が高まり、意欲的な活動につながった。歴史と伝統のある「本物」の資料が持つ効果や影響は絶大であった。
- 実際に実物に触れ、布や織物の感触を確かめながら、歴史的成り立ちや意味、用途について学習できた。
- 現代でも通用し、勝るとも劣ることのない、デザインのおもしろさや工夫されている点、すばらしさを実感できた。
- 自分紋をデザインするにあたり、大きなヒントや意欲につながる、効果的な単元の導入となった。



<課 題>

- 「本物」にふれるすばらしさを実感した反面、訪問授業という限られた条件の中で、博物館から借用できる資料の数や期間などの課題も明確になった。
- 実施に際し、博物館で資料を調査する機会が必要である。そのために、博物館のイベントを紹介し参加を呼びかける等、博物館をより身近に感じる体験を増やし生涯学習の1つとして、家族や友人等で博物館に親しむ姿勢につなげていきたい。



＜博物館授業＞ 小学校第5学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「見つめよう、わたしたちの食生活」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) かまど模型 (原始古代展示室)	・霞ヶ関遺跡を紹介する展示コーナーで古墳時代の炊事用具について博物館職員の説明を聞く。 ・現在の米の炊き方を比べ、違いやよさについて調べる。	・米を炊く道具にも様々な種類があり、時代によって使い方が異なることを知る。
(2) 台付甕の使い方 (原始古代展示室)		
(3) 釜 (2003-012-0003)		
(4) 釜のふた (1988-018-0005)		
(5) 電気釜 (1999-014-0001)		
(6) 飯盒 (1999-008-0003)		
(7) おひつ (2003-030-0005)	・資料を提示し、昔の保温器具について博物館職員の説明を聞く。 ・昔と今の保温器具の使い方を比べ、違いやよさについて調べる。	・米を保存する道具について知り、工夫されている点について考える。
(8) おひつ入れ (1992-011-0138)		
(9) 鍬 (1992-030-1079)	・資料を提示し、鍬や鋤の使い方について博物館職員の説明を聞く。 ・実際に鍬や鋤の使い方を体験する。	・昔の田畑を耕す方法について知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。
(10) 鋤 (1995-052-0021)		
(11) 千歯こき (1995-052-0027)	・資料を提示し、昔の農機具の使い方について博物館職員の説明を聞く。 ・実際に農機具の使い方を体験する。	・脱穀や精米する道具の使い方を知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。
(12) 足踏み脱穀機 (1995-052-0006)		
(13) 唐箕 (1996-024-0001)		

3 指導計画（4 4 時間扱い）

（1）見つけようおにぎりの秘密 ＜2 2 時間＞

①調べていく課題を決めよう。…………… 8 時間(本時)

②おにぎりの秘密を調査しよう。…………… 9 時間

③調べてわかったことをまとめよう。…………… 5 時間

（2）こだわりおにぎりを広めよう ＜2 2 時間＞

4 指導の実際

(1) 目 標

＜関＞ 昔から米づくりに使われてきた農器具や、昔の炊事用具に実際に触れることを通して当時の苦労や米づくりの工夫について考え、米づくりに対する興味関心を高める。

(2) 展 開 ＜90分授業＞

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価（評価方法）◎資料活用のポイント	博物館資料 （展示場所）	時 間
1 本時のねらいを確認する。 ・学習の目的 ・学習の内容	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○本授業のねらいを明確にする。 ○博物館のルールを確認する。		5分
昔から使われている米づくりの道具を知り、実際にふれてみよう！			
2 資料についての話を聞く。 ・昔の農機具 ・昔の炊事用具	○ここでは、名称や使用された年代等、資料についての簡単な紹介程度とする。 ◎体験学習室に各資料を展示する。 □体験学習室に展示した資料の名称・使用年代について簡単に紹介する。常設展示室の資料については、調べ活動の際に紹介する。	・ワークシート ①炊事用具 コーナー ・釜 ・釜のふた ・電気釜 ・飯盒 ・おひつ ・おひつ入れ	10分
3 昔の農機具や炊事用具について、詳しく調べる。 ・名称 ・使用年代 ・使い方 ・特徴 ・現在の道具との比較 ＜調べるコーナー＞ ①炊事用具 ②農耕用具 ③脱穀精米道具 ④大昔の炊事用具	○事前に全体を4つのグループに分け、ローテーション順を指導しておく。 ○①～④のコーナーにある資料について、15分間ずつローテーションしながら調べるようにする。 ◎調べる過程で、触れてもよい資料を用意し、体験できるようにする。 ◎同じ用途の資料を複数展示することにより、多面的に調べることができる。 □それぞれの道具の使い方や特徴の違いに気づくような説明をする。 ☆各資料について、興味関心をもって調べている。（関）	②農耕用具 コーナー ・鍬 ・鋤 ③脱穀精米道具 コーナー ・千歯こき ・足踏脱穀機 ・唐箕 ④大昔コーナー ・かまど模型 ・台付甕 (原始古代展示室)	60分
4 分かったことを発表し合う。 ・わかったことの発表 ・情報の共有	○分かったことや気づいたことを全体で共有できるようにする。 ☆様々な情報から、これから調べていく課題を考えようとしている。（関）	・ワークシート	15分

<訪問授業> 小学校第5学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「見つめよう、わたしたちの食生活」

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 釜 (2003-012-0003)	- 資料を提示し、昔の炊飯器について博物館職員の説明を聞く。 - 昔の釜や電気釜を使った米の炊き方と現在の米の炊き方を比べ、違いやよさについて調べる。	米を炊く道具にも様々な種類があり、時代によって使い方が異なることを知る。
(2) 釜のふた (1988-018-0005)		
(3) 電気釜 (1999-014-0001)		
(4) 飯盒 (1999-008-0003)		
(5) おひつ (2003-030-0005)	- 資料を提示し、昔の保温器具について博物館職員の説明を聞く。 - 昔と今の保温器具の使い方を比べ、違いやよさについて調べる。	米を保存する道具について知り、工夫されている点について考える。
(6) おひつ入れ (1992-011-0138)		
(7) 鍬 (1992-030-1079)	- 資料を提示し、鍬や鋤の使い方について博物館職員の説明を聞く。 - 実際に鍬や鋤の使い方を体験する。	昔の田畑を耕す方法について知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。
(8) 鋤 (1995-052-0021)		
(9) 千歯こき (1995-052-0027)	- 資料を提示し、昔の農機具の使い方について博物館職員の説明を聞く。 - 実際に農機具の使い方を体験する。	脱穀や精米する道具の使い方を知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。
(10) 足踏み脱穀機 (1995-052-0006)		
(11) 唐箕 (1996-024-0001)		

3 指導計画（4 4 時間扱い）

（1）見つけようおにぎりの秘密 <2 2 時間>

①調べていく課題を決めよう。……………8 時間(本時)

②おにぎりの秘密を調査しよう。……………9 時間

③調べてわかったことをまとめよう。……………5 時間

（2）こだわりおにぎりを広めよう <2 2 時間>

4 指導の実際

(1) 目 標

＜関＞ 昔から米づくりに使われてきた農器具や、昔の炊事用具に実際に触れることを通して当時の苦労や米づくりの工夫について考え、米づくりに対する興味関心を高める。

(2) 展 開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価（評価方法）◎資料活用のポイント	博物館資料 （展示場所）	時 間
1 本時のねらいを確認する。 ・学習の目的 ・学習の内容	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○本授業のねらいを明確にする。		3 分
昔から使われている米づくりの道具を知り、実際にふれてみよう！			
2 資料についての話を聞く。 ・昔の農機具 ・昔の炊事用具	○ここでは、名称や使用された年代等、資料についての簡単な紹介程度とする。 □各資料の名称・使用年代について簡単に紹介する。	・ワークシート ①炊事用具 コーナー ・釜 ・釜のふた ・電気釜 ・飯盒 ・おひつ ・おひつ入れ	5 分
3 昔の農機具や炊事用具について、詳しく調べる。 ・名称 ・使用年代 ・使い方 ・特徴 ・現在の道具との比較 ＜調べるコーナー＞ ①炊事用具 ②農耕用具 ③脱穀精米道具	○事前にクラス全体を3つのグループに分け、ローテーション順を指導しておく。 ○①～③のコーナーにある資料について、10分間ずつローテーションしながら調べるようにする。 ◎調べる過程で、触れてもよい資料を用意し、体験できるようにする。 □それぞれの道具の使い方や特徴の違いに気づくような説明をする。 ☆各資料について、興味関心をもって調べている。（関）	②農耕用具 コーナー ・鍬 ・鋤 ③脱穀精米道具 コーナー ・千歯こき ・足踏脱穀機 ・唐箕	32 分
4 分かったことを発表し合う。 ・わかったことの発表 ・情報の共有	○分かったことや気づいたことを全体で共有できるようにする。 ☆様々な情報から、これから調べていく課題を考えようとしている。（関）	・ワークシート	5 分

＜博物館授業＞ 中学校第1学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 昔と今の米作り ～地域の方との米づくりの体験学習を通して～

2 活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) かまど模型 (2) 石皿 (3) 石囲炉 (4) 土器 (5) 食物カレンダー (原始古代展示室)	・現在の調理方法との違いについて調べる。 ・展示資料についての疑問点等については、博物館職員に質問し解決を図る。	・現在の調理方法との違いについて考える。
(6) 釜 (2003-012-0003) (7) 炊飯器 (1999-014-0001)	・資料を提示し、昔の炊飯器について博物館職員の説明を聞く。 ・昔の釜や電気釜を使った米の炊き方と現在の米の炊き方を比べ、違いやよさについて調べる。	・米を炊く道具にも様々な種類があり、時代によって使い方が異なることを知る。
(8) 田打ち車 (1995-052-0010) (9) 田こて (1991-012-0004) (10) 田船 (1992-014-0001) (11) 馬鍬 (1991-040-0002) (12) 鍬 (1992-030-1079) (13) 鋤 (1995-052-0021)	・資料を提示し、昔の農機具の使い方について博物館職員の説明を聞く。 ・実際に農機具の使い方を体験する。	・昔の田畑を耕す方法について知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。
(14) 千歯抜き (1995-052-0027) (15) 足踏み脱穀機 (1995-052-0006)	・資料を提示し、昔の農機具の使い方について博物館職員の説明を聞く。 ・実際に農機具の使い方を体験する。	・脱穀や精米する道具の使い方を知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。

3 指導計画（12時間扱い）

（1）米づくりの一年

①米づくりの基本を学ぶ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

②昔と今の米づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間(本時)

（2）田植え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

（3）稲の観察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

（4）稲刈り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

（5）収穫祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

4 指導の実際（3・4／12時）

（1）目 標

＜関＞ 資料について意欲的に調べ、課題解決を図ろうとしている。

＜思＞ 米づくりに関する道具の比較を通して、人々の知恵や工夫・努力について考える。

(2) 展 開 <100分授業>

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価（評価方法）◎資料活用のポイント	博物館資料 （展示場所）	時間
1 本時のねらいを確認する。 ・学習の目的 ・学習の内容	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○本授業のねらいを明確にする。 ○博物館のルールを確認する。		10分
昔の米づくりや調理の仕方を調べ、今との違いを考えよう。			
2 古代の人々の食生活について調べる。 ・食材 ・調理法 ・炊事道具	○ワークシートをもとに、古代人の食材や調理法、使用していた道具について調べるようにする。 ○ワークシートをもとに展示物の中から必要な資料を探す活動を促す。 ◎実物に近い資料をから直接調査する活動により思考の幅を広めることができる。 □展示室内に待機し、生徒の質問に回答する。 ☆資料について意欲的に調べ、課題解決を図っている。（関）	・ワークシート ・かまど模型 ・石皿 ・石囲炉 ・土器 ・食物カレンダー （原始古代展示室）	25分
3 昔の農機具や炊事用具について、体験しながら詳しく調べる。 ・名称 ・使用年代 ・使い方 ・特徴 ・現在の道具との比較 ＜調べるコーナー＞ ①炊事用具 ②農耕用具 ③脱穀精米道具	○事前に全体を3つのグループに分け、ローテーション順を指導しておく。 ○①～③のコーナーにある資料について、7分間ずつローテーションしながら調べるようにする。 ○調べ活動と平行して、資料の使い方を体験させる。 ◎実物資料を使った体験ができる。 ◎複数展示された資料により、多面的に考えることができる。 □それぞれの道具の使い方や特徴の違いに気づくような説明をする。	①炊事用具 コーナー ・釜 ・炊飯器 ②農耕用具 コーナー ・田打ち車 ・田こて ・田船 ・馬鍬 ・鍬 ・鋤 ・鍬 ③脱穀精米道具 コーナー ・千歯こき ・足踏脱穀機	50分
4 分かったことを発表し合う。 ・わかったことの発表 ・情報の共有	○分かったことや気づいたことを全体で共有できるようにする。 ☆情報交換を通して、人々の知恵や工夫・努力について考えることができる。（思）	・ワークシート	15分

＜訪問授業＞ 中学校第1学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 昔と今の米作り ～地域の方との米づくりの体験学習を通して～

2 活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
(1) かまど模型 (2) 石皿 (3) 石囲炉 (4) 土器 (資料検索システム)	・博物館収蔵資料検索システムを利用して、古代の人々が使用していた炊事用具について調べる。 ・疑問点等については、博物館職員に質問し、解決を図る。	・古代の人々が使用していた道具と現在の道具を比較することを通して、米づくりへの興味関心を高める。
(5) 釜 (2003-012-0003) (6) 炊飯器 (1999-014-0001)	・資料を提示し、昔の炊飯器について博物館職員の説明を聞く。 ・昔の釜や電気釜を使った米の炊き方と現在の米の炊き方を比べ、違いやよさについて調べる。	・米を炊く道具にも様々な種類があり、時代によって使い方が異なることを知る。
(7) 田打ち車 (1995-052-0010) (8) 田こて (1991-012-0004) (9) 馬鍬 (1991-040-0002) (10) 鍬 (1992-030-1079) (11) 鋤 (1995-052-0021)	・資料を提示し、昔の農機具の使い方について博物館職員の説明を聞く。 ・実際に農機具の使い方を体験する。	・昔の田畑を耕す方法について知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。
(12) 千歯抜き (1995-052-0027) (13) 足踏み脱穀機 (1995-052-0006)	・資料を提示し、昔の農機具の使い方について博物館職員の説明を聞く。 ・実際に農機具の使い方を体験する。	・脱穀や精米する道具の使い方を知り、道具の体験を通して、当時の様子について考える。

3 指導計画（12時間扱い）

（1）米づくりの一年

①米づくりの基本を学ぶ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

②昔と今の米づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間(本時)

（2）田植え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

（3）稲の観察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

（4）稲刈り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

（5）収穫祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

4 指導の実際（3・4／12時）

（1）目 標

＜関＞ 資料について意欲的に調べ、課題解決を図ろうとしている。

＜思＞ 米づくりに関する道具の比較を通して、人々の知恵や工夫・努力について考える。

(2) 展 開 <100分授業>

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価（評価方法）◎資料活用のポイント	博物館資料 （展示場所）	時 間
1 本時のねらいを確認する。 ・学習の目的 ・学習の内容	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○本授業のねらいを明確にする。 ○博物館のルールを確認する。		10 分
昔の米づくりや調理の仕方を調べ、今との違いを考えよう。			
2 古代の人々の食生活に使用していた道具について知る。 ・調理法 ・炊事道具	○コンピュータ室で授業を行う。 ○博物館収蔵資料検索システムを利用して古代の人々が使用していたと考えられる炊事道具を確認させる。 ○写真資料から、使い方を想像させる。 □検索システムで確認した資料について、簡単に紹介する。 ○道具について必要以上に深入りせず、現在の道具との比較程度にする。	・ワークシート ・かまど模型 ・石皿 ・石囲炉 ・土器 (資料検索システム)	25 分
3 昔の農機具や炊事用具について、体験しながら詳しく調べる。 ・名称 ・使用年代 ・使い方 ・特徴 ・現在の道具との比較 ＜調べるコーナー＞ ①炊事用具 ②農耕用具 ③脱穀精米道具	○体育館に移動して授業を行う。 ○事前に全体を3つのグループに分け、ローテーション順を指導しておく。 ○①～③のコーナーにある資料について、15分間ずつローテーションしながら調べるようにする。 ○調べ活動と平行して、資料の使い方を体験させる。 ◎実物資料を使った体験ができる。 □それぞれの道具の使い方や特徴の違いに気づくような説明をする。 ☆資料について意欲的に調べ、課題解決を図っている。(関)	①炊事用具 コーナー ・釜 ・炊飯器 ②農耕用具 コーナー ・田打ち車 ・田こて ・馬鍬 ・鍬 ・鋤 ・鍬 ③脱穀精米道具 コーナー ・千歯こき ・足踏脱穀機	50 分
4 分かったことを発表し合う。 ・わかったことの発表 ・情報の共有	○分かったことや気づいたことを全体で共有できるようにする。 □発表内容に応じて指導助言を行う ☆情報交換を通して、人々の知恵や工夫・努力について考えることができる。(思)	・ワークシート	15 分

<実践の様子>

- 実際に昔の農機具を見たり、使ってみたりすることができ興味をもって学習に取り組んでいた。
- 博物館職員の話が分かりやすく、集中して説明を聞く児童が多かった。また、分からないことや疑問に思ったことをその場で質問して解決を図る児童も見られた。
- 実物資料が多かったが、準備、片付け等児童と一緒に行うことで素早く行えた。
- 児童の興味が広がり、その後の学習についてさらに詳しく調べたいという意見が出された。



<成 果>

- 実物資料に触れることにより、調べ学習でわかった内容を確認することができる。
- 博物館職員による道具の説明により、昔の道具を使っていた人たちの苦労や努力に気付くことができた。
- 今の農業と昔の農業とを比較して考える学習として、とても効果的であった。
- 米づくりの歴史を振り返り、携わる人たちの工夫や改善への取り組みについて理解する上で有効な学習であった。



<課 題>

- 多くの農具や道具を使用するため、授業を実施する場合は特別教室の利用が望ましい。計画段階で、特別教室の確保が必要である。
- 博物館から持ち寄れる資料に限りがあるため、調べ学習で興味・関心をもった資料と異なる場合があり、訪問授業への関心が低くなる児童も見られた。
- 大型の資料が多いため、準備や片付けの仕方について、博物館職員との十分な事前打合せが必要である。

<博物館授業・訪問授業を実施した場合による「学習効果」>

- 米づくりを行うだけでなく、作業に使用していた道具や、調理に使用していた道具について調べることにより、米づくりが現在の形に至るまでの人々の知恵や工夫、努力の様子について考えることができる。
- 文書や写真資料だけでなく、実物資料を観察したり、体験したりすることにより、理解を深化させることができる。
- 小学校で利用経験のある博物館を別の学習で利用することにより、情報基地として博物館を活用していく態度を養うことができる。
- 博物館職員による解説は、教師自身の勉強にもなる。新たに取り入れた知識を職員間で共有することにより、今後の学習に有効な指導が可能となる。
- 訪問授業では、教室にしながら、学校では用意することが難しい実物資料に触れることができ、生徒の意欲を高めることができる。
- 博物館授業を実施した場合には、公共の場でのマナー、けじめを改めて意識させることができる。

<博物館授業・訪問授業を実施する場合の「留意点」>

- 博物館収蔵資料検索システムを効率よく利用するには、博物館ホームページや検索ページを閲覧しやすいように事前に準備しておく必要がある。
- 博物館授業の時間を確保することが、困難である。往復の交通時間と授業時間を考えて、2時間以上は確保する必要がある。また、他教科の授業の入れ替えや引率などについては、学年会あるいは職員会議で計画性を持って提案・調整することが必要である。
- 体験を実施すると、道具の古さや手間などから「昔は大変だった」という感覚的な印象を持つ生徒が考えられる。体験を通して、それぞれの道具に込められた当時の人々の知恵や工夫についても考える場を設定することが大切である。
- 小学校でも「米づくり」を実施している学校が多い。
関係小学校の学習内容を調査し、関連づけた授業を実施できるように配慮する。
- 取り上げた資料（道具等）を実際に使用していた方を授業の中でゲストティーチャーとして活用し、実体験を語っていただくことにより、思考が深まる。



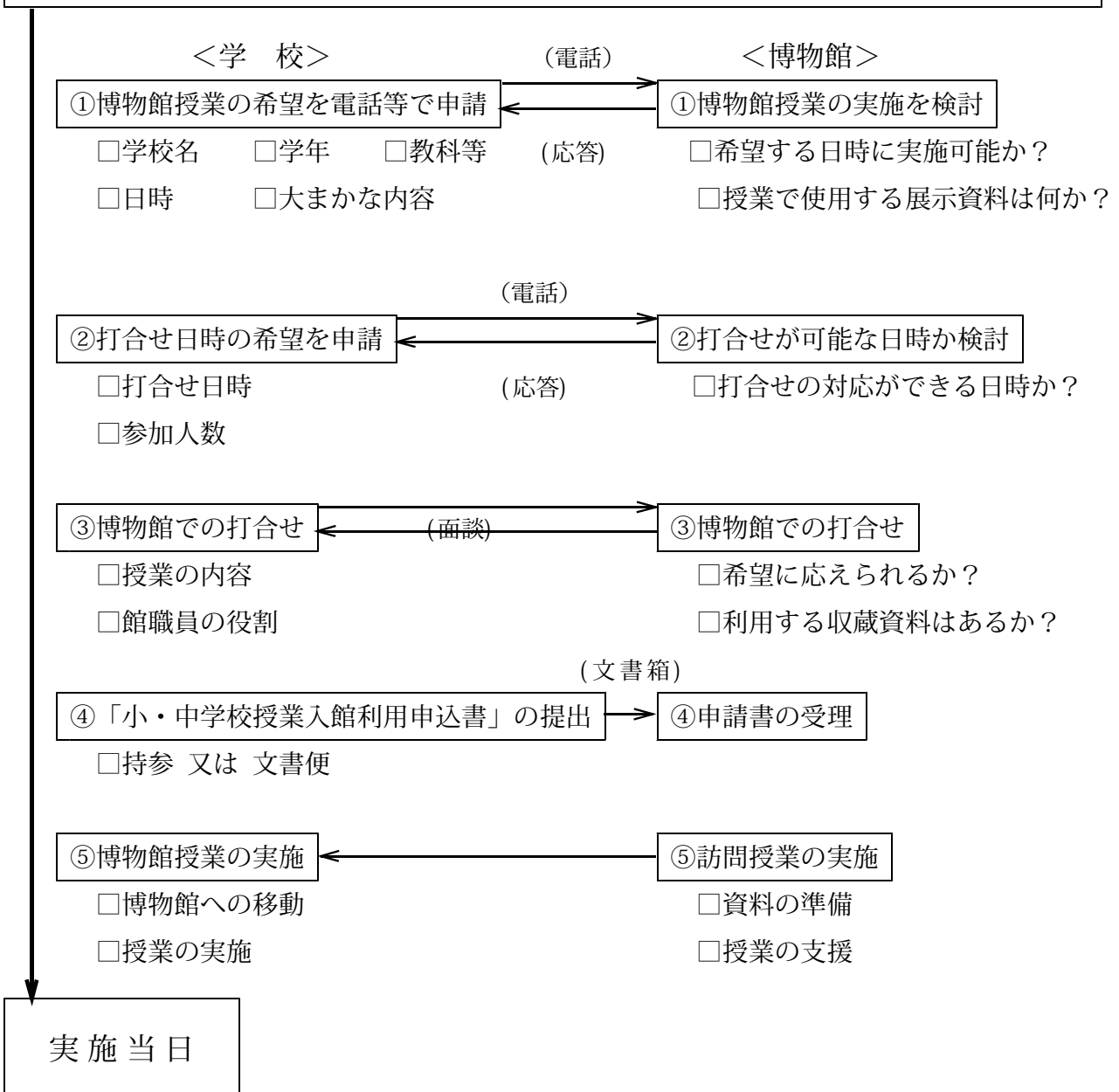
「博物館授業」の実施に向けた手続き

(1) 「博物館授業」のとりえ方

- ☐ 基本的には、「学校が博物館を利用する」という形になる。
→ 学校長から教育長に宛てた「小・中学校授業入館利用申込書」が必要となる。

(2) 実施までの手順について

博物館授業を実施するまでの「手続き上の流れ」



担 当	合 議	リーダー	館 長

小・中学校授業入館利用申込書

(提出先) 平成 年 月 日

川越市教育委員会教育長

住 所 〒

学 校 名

校 長 名 印

電話番号 () -

以下の通り申し込みます。

区 分	川越市立博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館
入 館 日 時	平成 年 月 日 (曜日) (: ~ :) 【雨天時】 実施・中止・延期(月 日)	平成 年 月 日 (曜日) (: ~ :) 【雨天時】 実施・中止・延期(月 日)	平成 年 月 日 (曜日) (: ~ :) 【雨天時】 実施・中止・延期(月 日)
人 員	児童・生徒_____人 (第 学年) 引率者 (教職員____人・保護者____人)	児童・生徒_____人 (第 学年) 引率者 (教職員____人・保護者____人)	児童・生徒_____人 (第 学年) 引率者 (教職員____人・保護者____人)
目 的 等	☐ 社会科 ☐ 生活科 ☐ その他の教科 () ☐ 特別活動 ☐ 総合的な学習の時間 単元名等 ね ら い 活動内容		
責 任 者	_____年_____組担任・_____担当 _____氏 名 TEL (_____) ※引率者の携帯電話番号		

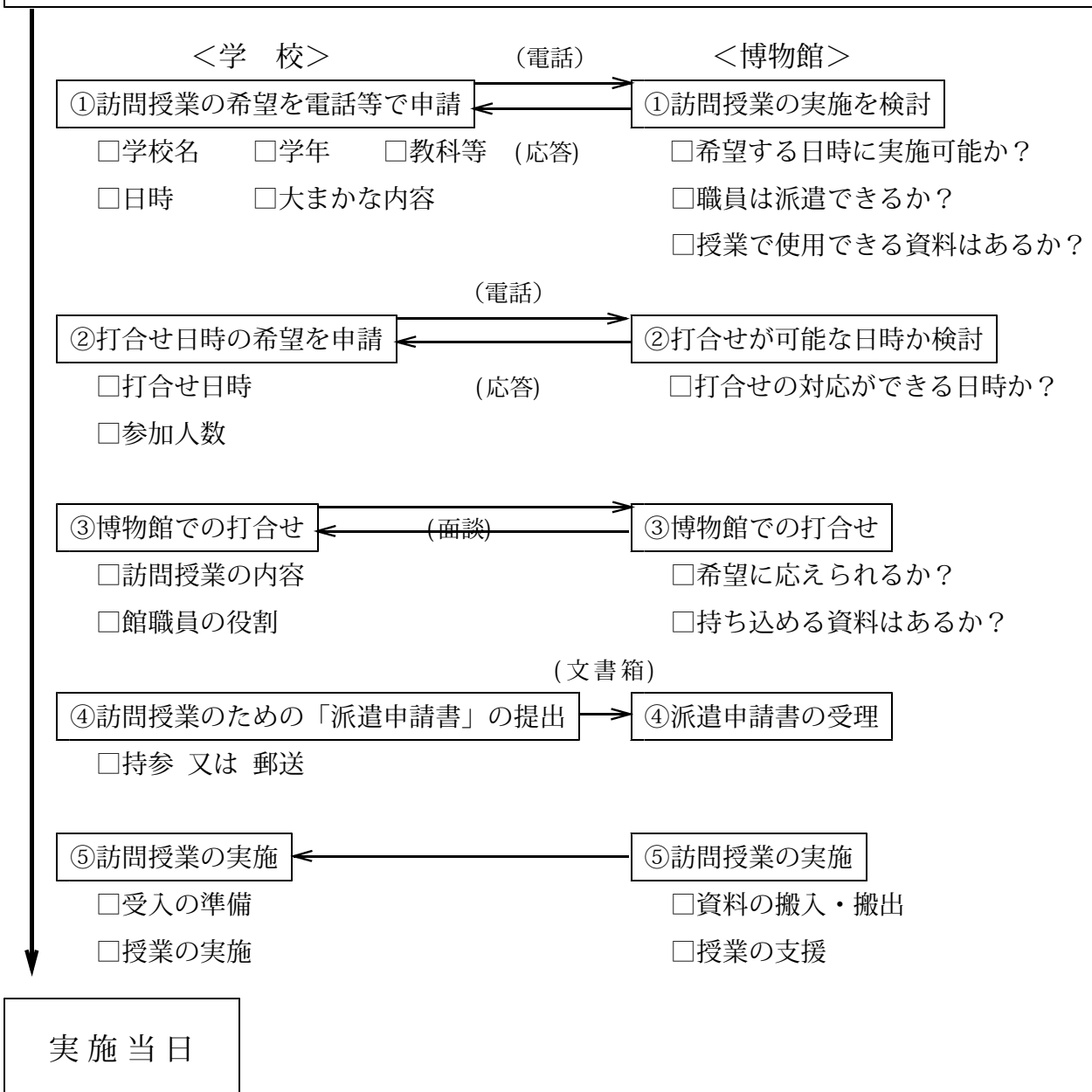
「訪問授業」の実施に向けた手続き

(1) 「訪問授業」のとりえ方

- ☐ 基本的には、「学校の要請に応じて博物館職員を派遣する」という形になる。
→ 学校長から博物館長に宛てた「依頼文書」が必要となる。

(2) 実施までの手順について

訪問授業を実施するまでの「手続き上の流れ」



川 発 第 号
平成 年 月 日

川越市立博物館
館長 様

川越市立
校長

訪問授業の実施について（依頼）

このことについて、下記のとおり実施したいので、ご配慮くださるようお願いいたします。

記

- 1 日 時 平成 年 月 日（ ）
 ① 年 組 : ~ : (分)
 ② 年 組 : ~ : (分)
 ③ 年 組 : ~ : (分)
- 2 会 場 年 組 教室
- 3 学年・組 第 学年
- 4 教科名 科
 (单元名) ()
- 5 主な内容 ○
- 6 借用資料 ○
- 7 連絡先 ○担当者名：
 ○電話番号：
- 8 備 考

記入例

川江中発 第 145 号
平成24年10月15日

川越市立博物館
館長 大野 政己 様

川越市立小江戸中学校
校長 河 越 太 郎

訪問授業の実施について（依頼）

このことについて、下記のとおり実施したいので、ご配慮くださるようお願いいたします。

記

- | | | |
|---|--------------|--|
| 1 | 日 時 | 平成24年11月28日（金）
①1年1・2組 9：50～10：40（50分）
②1年3・4組 11：00～11：50（50分） |
| 2 | 会 場 | 視聴覚教室 |
| 3 | 学年・組 | 第1学年 |
| 4 | 教科名
（单元名） | 美術科
（自分紋のカレンダーの制作） |
| 5 | 主な内容 | ○オリジナルの紋様を作成するための参考資料として、鳶職の羽織に描かれている家紋や屋号のマークの調査。
○博物館職員による「鳶職」「羽織」「各家の紋様」等についての解説。
○博物館職員の生徒の質問への対応。 |
| 6 | 借用資料 | ○鳶職の羽織 8点 |
| 7 | 連絡先 | ○担当者名：第1学年美術科担当 本丸花子
○電話番号：049-222-5399 |
| 8 | 備 考 | ○当日は、午前9時30分に職員室までお越しください。 |